FUJITSU

Fujitsu Software Systemwalker as a Service

機能説明書

SWaaS-FG-01
2025年9月

はじめに

本書の目的

本書は、Systemwalker as a Serviceで提供される機能について説明します。

本書の読者

本書は、Systemwalker as a Serviceのサービスを検討されている方を対象としており、クラウド環境上の仮想マシンを利用する方を対象として説明します。

本書を読むにあたって、ご利用の環境に合わせて以下の知識が必要です。

- Linuxに関する基本的な知識
- Windowsに関する基本的な知識
- Amazon Web Servicesに関する基本的な知識
- Microsoft Azureに関する基本的な知識
- FUJITSU Software Systemwalker Centric Managerに関する基本的な知識
- FUJITSU Software Systemwalker Operation Managerに関する基本的な知識
- FUJITSU Software PRIMECLUSTERに関する基本的な知識

本書の構成

本書は、以下の構成で説明します。

第1章は、Systemwalker as a Serviceの機能概要について説明します。

第2章は、Systemwalker as a Serviceにおける基本機能の詳細を説明します。

第3章は、Systemwalker as a Serviceにおけるオプション機能の詳細を説明します。

第4章は、Systemwalker as a Serviceを利用するための動作環境について説明します。

第5章は、Systemwalker as a Serviceで使用しているオープンソースソフトウェア等のライセンス条件および責任規定について説明します。

また、付録では、Systemwalker as a Serviceの機能提供範囲およびDisaster Recoveryにおける接続構成について説明します。

本書の表記について

本書では、以下の表記を使用します。

略称について

正式名称	略称
Amazon Web Services	AWS
Microsoft Azure	Azure

記号について

記号	意味
[]	画面やダイアログボックスに表示される文字およびキーボードのキーを示します。

記号	意味
	例) [設定]ダイアログボックス、[ファイル]メニュー、[項目名]、[OK]ボタン、[Enter]キー

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

登録商標について

Amazon Web Services、その他のAWS商標は、米国その他の諸国における、Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。

Google Chromeは、Google LLC の商標または登録商標です。

Linux(R)は米国およびその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Azureまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hatは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.およびその子会社の商標または登録商標です。

そのほか、本書に記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

なお、本書に記載されている会社名、システム名、製品名等には必ずしも商標表示 (TM・(R)) を付記しておりません。

改版履歴

版数	年月	変更内容
第1.0版	2025年9月	初版

著作権表示

Copyright 2025 Fujitsu Limited

目　次

第1章 機能概要 1
1.1 Systemwalker as a Serviceとは 1
1.2 Systemwalker as a Serviceの機能 1
1.3 Systemwalker as a Serviceの利用シーン 2

第2章 基本機能詳細 5
2.1 運用ポータル 5
2.1.1 Systemwalkerマネージャーの管理 5
2.1.2 Systemwalkerマネージャーの操作 5
2.1.3 ユーザーとAPI認証情報管理 5
2.1.4 運用ポータル画面構成 7
2.1.4.1 マネージャー一覧画面 7
2.1.4.2 コマンド実行画面 10
2.1.4.3 操作タスク一覧画面 12
2.1.4.4 タスク詳細画面 13
2.2 統合管理（運用管理サーバ機能） 15
2.2.1 Systemwalkerマネージャーのログ確認 17
2.2.2 Systemwalkerエージェントのログ確認 17
2.2.3 Systemwalker Centric Managerのコマンド実行 18
2.2.4 Systemwalker Centric ManagerのAPI実行 20
2.3 ジョブ管理 21
2.3.1 Systemwalkerマネージャーのログ確認 22
2.3.2 Systemwalker Operation Managerのコマンド実行 23

第3章 オプション機能詳細 25
3.1 統合管理（全体監視サーバ機能・部門管理サーバ機能） 25
3.1.1 Systemwalkerマネージャーのログ確認 26
3.1.2 Systemwalker Centric Managerのコマンド実行 26
3.2 スクリプト実行 30
3.3 Disaster Recovery 30
3.4 オンプレミス連携 32

第4章 動作環境 33
4.1 Systemwalker as a Serviceの動作環境 33
4.2 Systemwalker as a Serviceがサポートする業務環境 37
4.3 ネットワーク情報 38

第5章 オープンソースソフトウェア等のライセンス条件および責任規定 40
5.1 OSSのライセンス条件 40

付録A 機能提供範囲 41
A.1 統合管理 41
A.2 ジョブ管理 43

付録B Disaster Recoveryにおける接続構成 45
B.1 同一リージョン構成 45
B.2 可変リージョン構成 45

第1章　機能概要

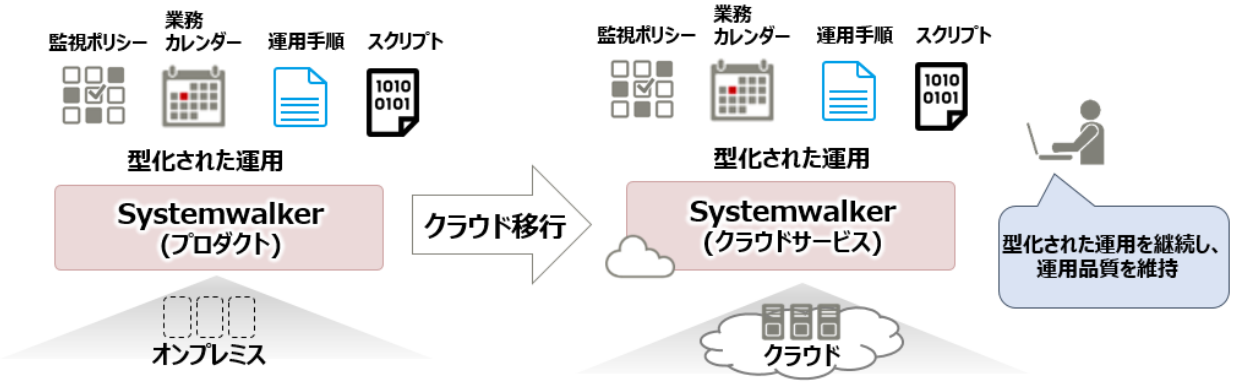
本章では、Systemwalker as a Serviceの機能概要について説明します。

1.1　Systemwalker as a Serviceとは

Systemwalker製品をご利用のお客様が、オンプレミスでの統合運用管理を維持しつつ、クラウド移行後も同様の運用を継続できるよう支援するためのサービスです。

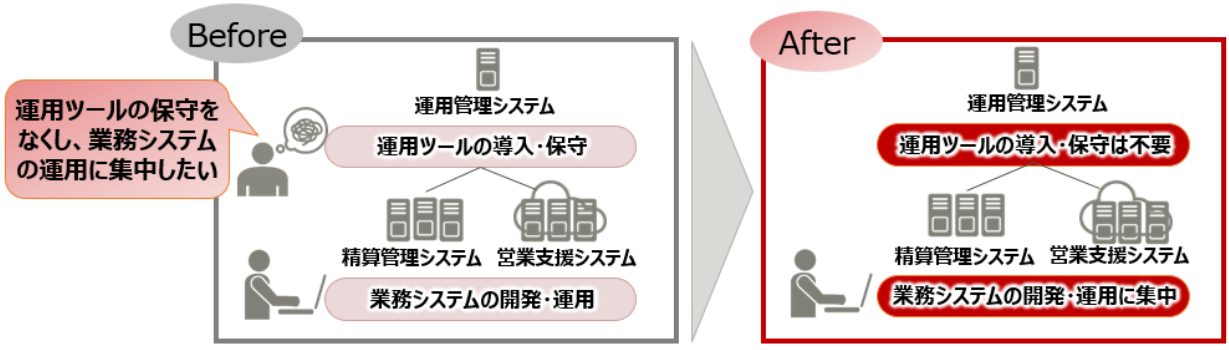
既存資産の利用による高品質な運用の継続

オンプレミス環境で利用してきた既存の運用資産を、クラウド環境でも継続的に利用することで、高品質な運用を維持します。



運用管理コストの削減

プロダクト版で必要だった運用管理用のサーバやソフトウェアの所有、構築、保守にかかるコストを削減します。



1.2　Systemwalker as a Serviceの機能

Systemwalker as a Serviceの機能について説明します。

運用ポータル

統合管理機能およびジョブ管理機能を操作するためのWeb画面を提供します。

統合管理

Systemwalker Centric Managerの全体監視サーバ機能、運用管理サーバ機能、部門管理サーバ機能を包含し、IT環境の運用管理を支援する統合管理基盤を提供します。

なお、全体監視サーバ機能および部門管理サーバ機能は、オプション契約により利用可能です。

ジョブ管理

Systemwalker Operation Managerのスケジュールサーバ機能を包含し、IT環境の運用・管理作業を自動化するジョブ管理基盤を提供します。

1.3 Systemwalker as a Serviceの利用シーン

Systemwalker as a Serviceの利用シーンについて説明します。

なお、本書で用いる名称は以下のとおりです。

- Systemwalkerマネージャー

  Systemwalker as a Serviceが提供する、Systemwalker Centric Managerの全体監視サーバ、運用管理サーバ、部門管理サーバ、およびSystemwalker Operation Managerのスケジュールサーバのことを示します。

  冗長構成のサービスプランを選択した場合は、1:1の運用待機構成によるクラスタシステムが採用されます。

- Systemwalkerエージェント

  Systemwalkerマネージャーに直接接続する、Systemwalker Centric Manager 業務サーバ、Systemwalker Operation Manager 実行サーバのことを示します。

- Systemwalkerクライアント

  Systemwalker Centric Manager 運用管理クライアント、Systemwalker Operation Manager クライアントのことを示します。

- 業務環境の運用管理サーバ

  Systemwalker as a Serviceが提供する、Systemwalker Centric Managerの全体監視サーバに接続する利用者業務環境のSystemwalker Centric Managerの運用管理サーバのことを示します。

- 業務環境の部門管理サーバ

  Systemwalker as a Serviceが提供する、Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバに接続する利用者業務環境のSystemwalker Centric Managerの部門管理サーバのことを示します。

- 業務環境のマネージャ経由で接続するSystemwalkerエージェント

  以下のサーバのことを示します。

  - 業務環境の運用管理サーバを経由して接続する、Systemwalker Centric Managerの部門管理サーバ、業務サーバ
  - 業務環境の部門管理サーバを経由して接続する、Systemwalker Centric Managerの業務サーバ

統合管理

統合管理機能には、以下の5つの運用パターンがあります。

a. クライアント操作

   運用管理クライアントのSystemwalkerコンソールから、業務サーバを統合管理します。

b. ファイルサーバー操作

   Systemwalker as a Serviceにあるファイルサーバーからログを取得します。

c. コマンド実行

   運用ポータルを利用して、Systemwalker Centric Managerのコマンドを実行し、その実行状況を管理します。

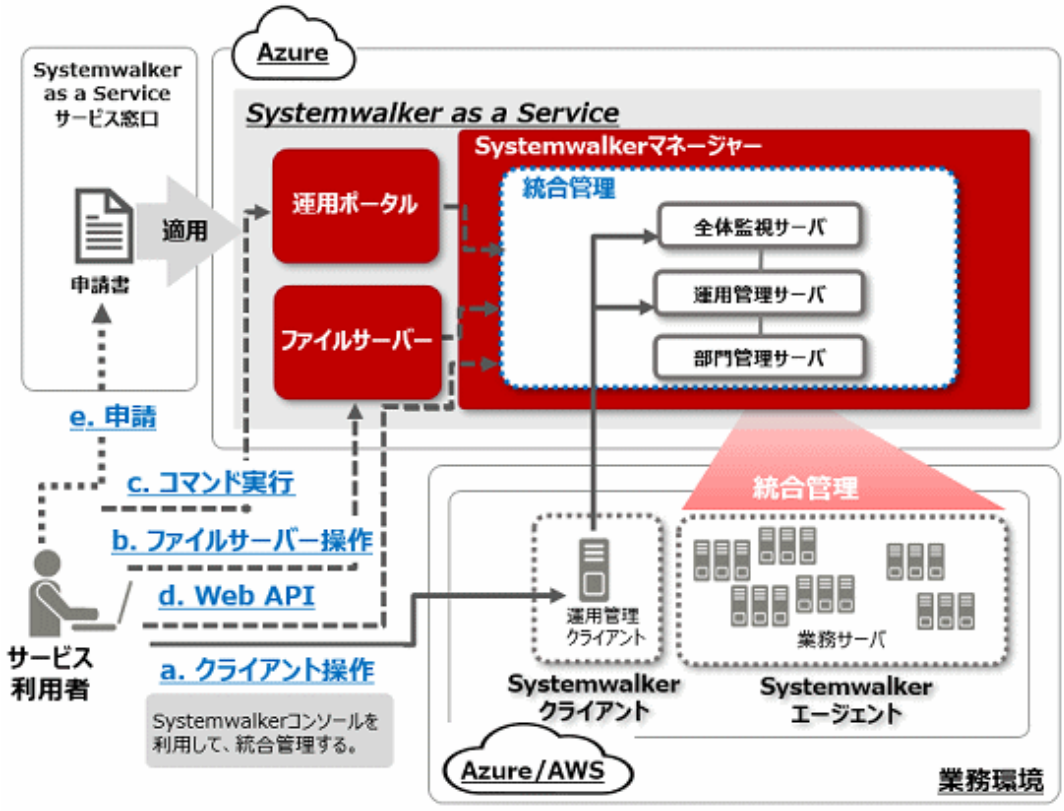
d. Web API

   Web APIを利用して、Systemwalker Centric ManagerのAPIを実行します。

e. 申請

   上記の方法で対応できない運用については、サービス窓口への申請により対応します。

- Systemwalkerマネージャーのバックアップ
- Systemwalkerクライアント、Systemwalkerエージェントの追加/変更/削除
- ユーザーの管理
- CSVファイル形式のアプリケーション情報の移入
- イベント監視[監視条件]の監視ポリシーの登録
- 運用管理サーバのノード情報を全体監視サーバにノード移入
- クラスタ構成のSystemwalkerマネージャーのフェイルオーバー



ポイント

Systemwalker マネージャーによる既存業務環境の統合管理

既存の業務環境で運用されている運用管理サーバや部門管理サーバを、Systemwalker マネージャーに接続することが可能です。

サービス利用者の業務環境の運用管理サーバ、業務環境の部門管理サーバ、およびそれらに接続している業務サーバを Systemwalker マネージャーと連携することで、Systemwalker マネージャーから管理できます。

ジョブ管理

ジョブ管理機能には、以下の4つの運用パターンがあります。

a. クライアント操作

クライアントの画面（GUI）からジョブのスケジュール管理や実行制御を行います。

b. ファイルサーバー操作

ファイルサーバーからログを取得します。

また、Systemwalker as a Serviceにあるファイルサーバーにスクリプトを配置し、スケジュールサーバで定義されたジョブネット間を連携します。

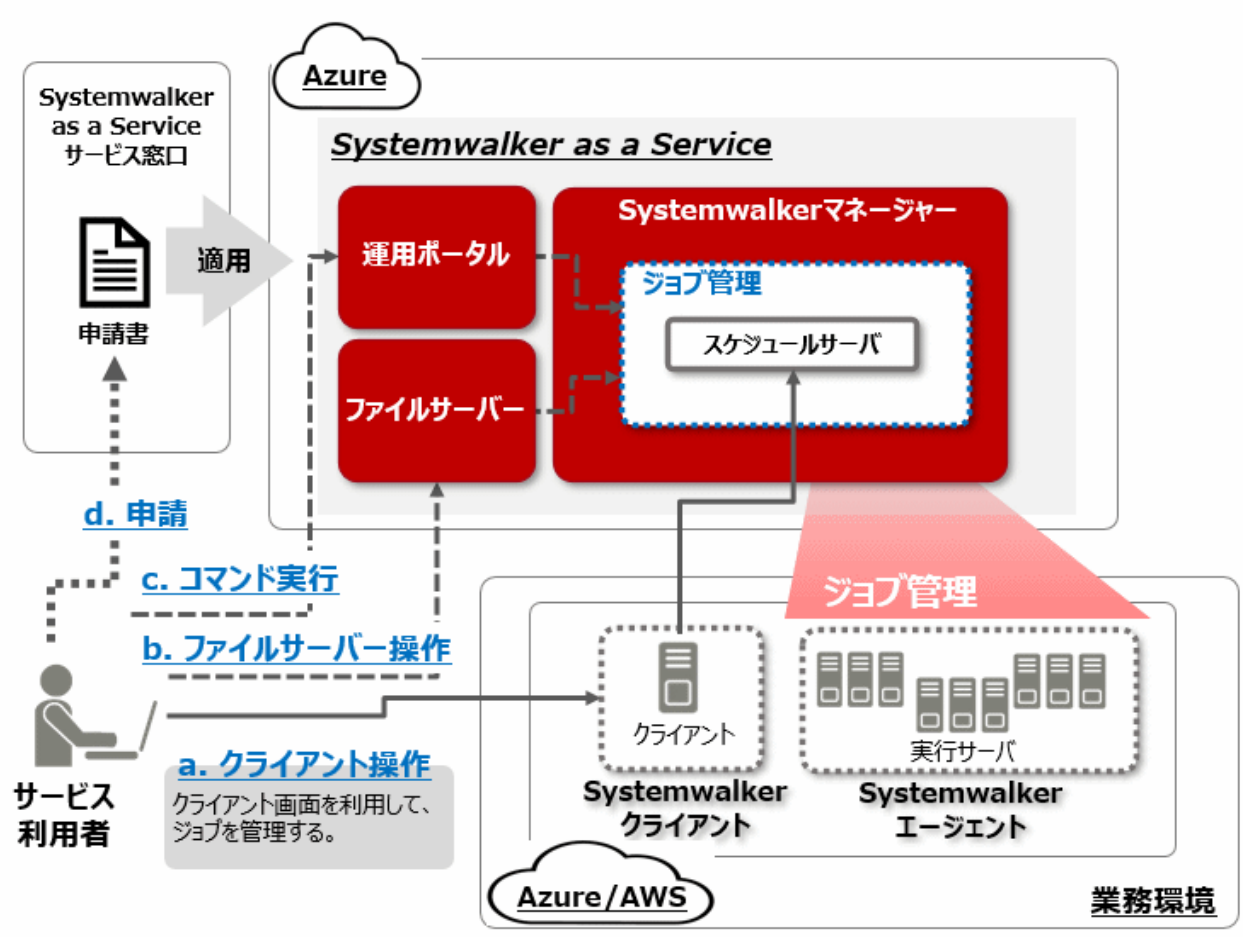
c. コマンド実行

運用ポータルを利用して、Systemwalker as a Service上のスケジュールサーバに対して、Systemwalker Operation Managerのコマンドを実行し、その実行状況を管理します。

d. 申請

上記で対応できない運用については、サービス窓口への申請により対応します。

- Systemwalkerマネージャーのバックアップ
- Systemwalkerクライアント、Systemwalkerエージェントの追加/変更/削除
- ユーザーの管理
- クラスタ構成のSystemwalkerマネージャーのフェイルオーバー



第2章 基本機能詳細

本章では、Systemwalker as a Serviceの基本機能の詳細について説明します。

2.1 運用ポータル

運用ポータルは、Systemwalkerマネージャーに対して、任意のタイミングでSystemwalker Centric ManagerとSystemwalker Operation Managerのコマンドを実行し、その操作タスクを管理できる機能です。

2.1.1 Systemwalkerマネージャーの管理

Systemwalkerマネージャーの一覧を参照・検索できます。

Systemwalkerマネージャーの管理

[マネージャー一覧]画面を利用して、Systemwalkerマネージャーを管理します。

各Systemwalkerマネージャーを利用するための情報（サーバー名、種別、IPアドレス）を参照できます。

また、Systemwalkerマネージャーの情報（サーバー名、種別、IPアドレス）を元に、すべてのSystemwalkerマネージャーから部分一致で検索できます。

操作タスクの管理

Systemwalkerマネージャーに操作した内容を操作タスクとして、[操作タスク一覧]画面や[タスク詳細]画面からタスクの状態を確認できます。

ポイント

冗長構成のサービスプランを選択した場合は、1:1の運用待機構成によるクラスタシステムが採用されます。
運用ポータル上では、この2台のノードで構成されたクラスタが、1つのSystemwalkerマネージャーとしてまとめて管理・表示されます。

2.1.2 Systemwalkerマネージャーの操作

Systemwalkerマネージャーに対して特定のコマンドを実行して、その結果や実行状況を確認できます。

Systemwalkerマネージャーの操作

[マネージャー一覧]画面から該当するマネージャーに対して、[コマンド実行]画面を表示し、その画面からコマンド実行の操作ができます。

実行可能なコマンドについては、以下を参照してください。

- 統合管理

  “2.2.3 Systemwalker Centric Managerのコマンド実行”

- ジョブ管理

  “2.3.2 Systemwalker Operation Managerのコマンド実行”

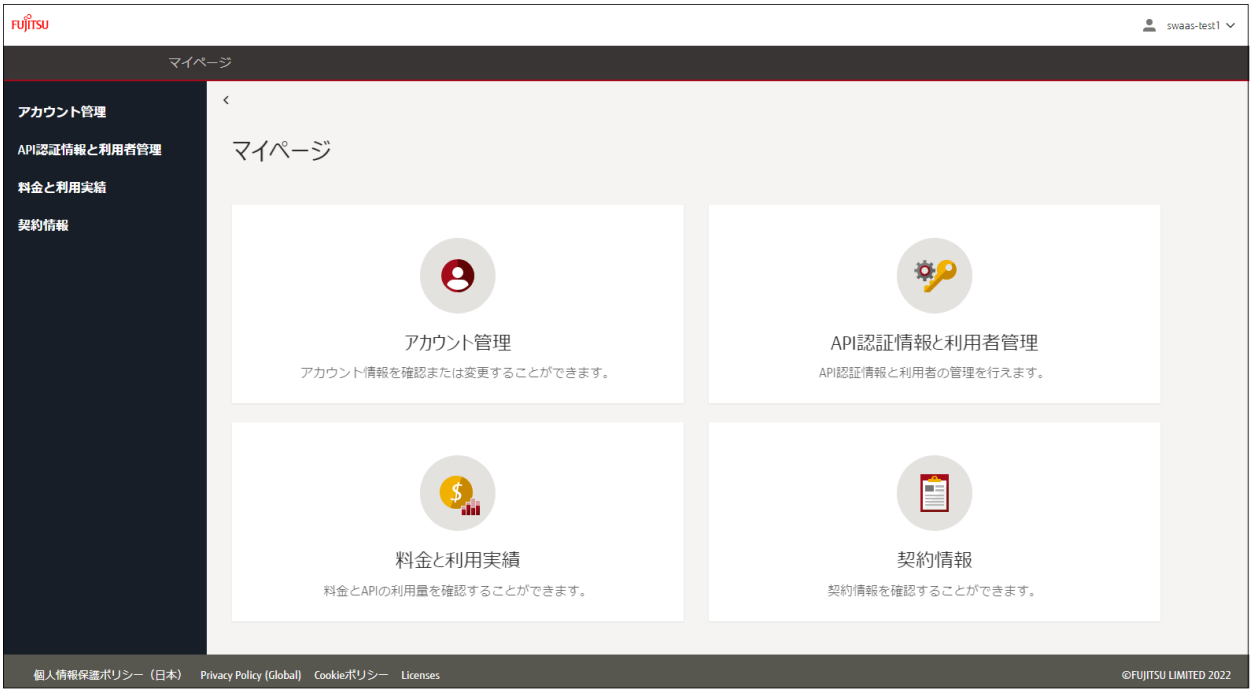
2.1.3 ユーザーとAPI認証情報管理

運用ポータルでは、使用するユーザー情報やAPI認証情報を管理できます。

- ユーザー情報の管理は、管理ポータルのURLにアクセスして操作を行います。

・ 運用ポータルにログインできるのは、Systemwalker as a Serviceのサービスが有効になっているグループに所属するユーザーのみです。

セキュリティ強化のため、[アカウント管理]画面から2段階認証を設定できます。2段階認証を有効にすると、管理ポータルおよび運用ポータルのログイン時に適用されます。
2段階認証では、パスワードによる認証に加え、SMSまたはE-mailによる認証コードの確認により、認証できます。



以下のメニューから各種操作ができます。

メニュー		操作
アカウント管理		アカウント管理 アカウント情報変更（2段階認証の設定を含む） パスワード変更 アカウント削除
API認証情報と利用者管理	[グループ一覧]	グループの作成、編集、削除
	[グループ一覧]>グループ詳細>[メンバー管理]タブ	メンバーの追加、削除
	[グループ一覧]>グループ詳細>[認証情報]タブ	OAuth認証情報の新規作成、再発行、削除
契約情報		契約情報の確認

注意

本画面では、以下の操作は無効です。誤って操作しないように注意してください。

・ [API認証情報と利用者管理]メニューの[認証情報]タブの[APIキー認証情報]

・ [料金と利用実績]メニュー

2.1.4　運用ポータル画面構成

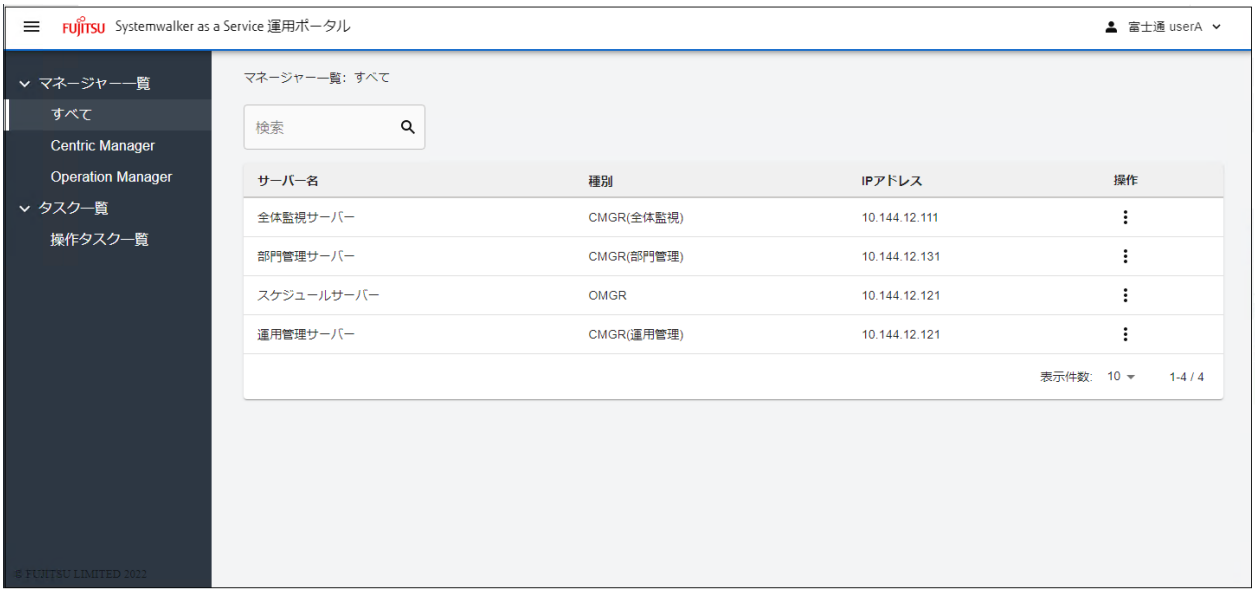
運用ポータルにログイン後、[運用ポータル]画面では、以下の画面が利用できます。

- マネージャー一覧
- コマンド実行
- 操作タスク一覧
- タスク詳細

2.1.4.1　マネージャー一覧画面

Systemwalkerマネージャーを一覧で管理するための画面です。

[サーバー名]、[種別]、[IPアドレス]において、ソートして表示することもできます。

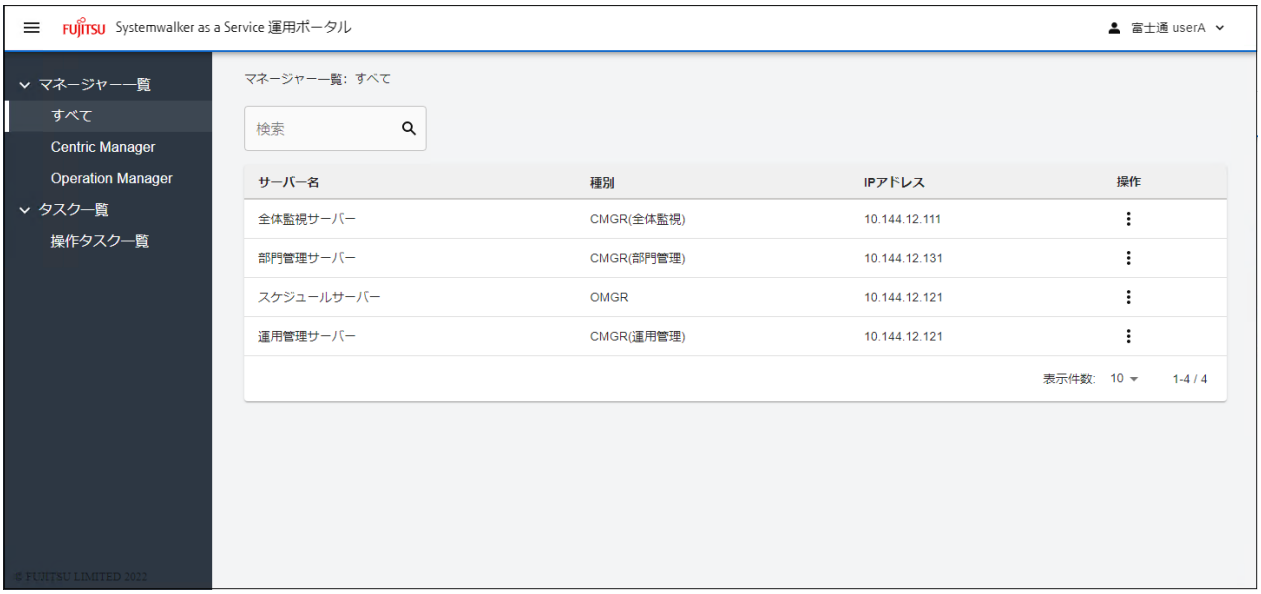


サイドメニュー表示/全画面表示

運用ポータルにログインすると、ヘッダーの左に表示されるハンバーガーアイコンから、サイドメニュー表示または全画面表示（サイドメニュー非表示）に切り替えることができます。

ログイン直後は、サイドメニュー表示となります。

サイドメニュー表示



全画面表示



マネージャー一覧/タスク一覧のメニュー切り替え

サービス利用者は、サイドメニューから表示されるメニューを切り替えることができます。

なお、各画面では[F5]キーで画面をリフレッシュでき、最新の[マネージャー一覧]および[タスク一覧]の操作タスク状況を確認できます。



[マネージャー一覧]メニューから、以下を選択して表示します。

メニュー	意味
すべて	Systemwalkerマネージャーに含まれるすべてのサーバーを表示
Centric Manager	Systemwalker Centric Managerの全体監視サーバ、運用管理サーバ、部門管理サーバが導入されているサーバーを表示
Operation Manager	Systemwalker Operation Managerのスケジュールサーバが導入されているサーバーを表示

マネージャー一覧表示内容

1ページに表示するマネージャーの最大数は5、10、25から選択できます。デフォルトは10です。

表示最大数を超える場合は、テーブルフッターのページャーを使用してページを切り替えることで、すべてのマネージャーを参照できます。



サーバー名

サービス環境の構築申請時に申請したSystemwalkerマネージャーのサーバー名です。

種別

Systemwalker Centric ManagerおよびSystemwalker Operation Managerにおける、Systemwalkerマネージャーの種別です。

- CMGR(全体監視)
- CMGR(運用管理)
- CMGR(部門管理)
- OMGR

IPアドレス

サーバーのIPアドレス(IPv4)です。

サービス環境の構築申請後、サービス利用開始するまでの間にサービス提供元で決定します。

マネージャー検索

[検索]の入力フォームからSystemwalkerマネージャーを部分一致で検索します。

検索対象は、[マネージャー一覧]に表示されている全項目（サーバー名、種別、IPアドレス）です。

検索条件に一致しない場合は、「結果が見つかりませんでした」と表示されます。

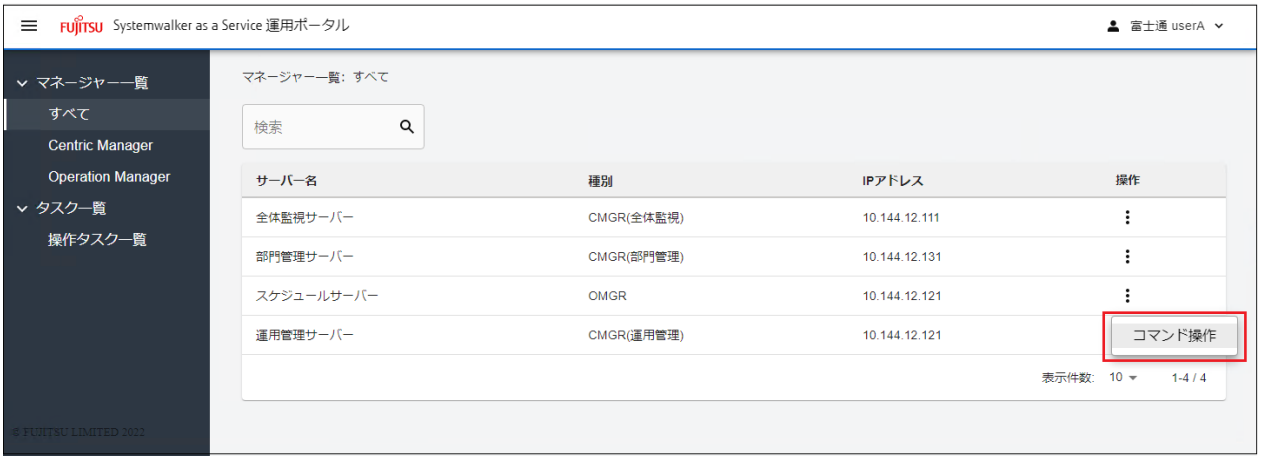
入力フォームの文字をすべて削除すると、検索が解除されます。



2.1.4.2　コマンド実行画面

[マネージャー一覧]画面の[すべて]、[Centric Manager]、[Operation Manager]メニューから表示されたマネージャーにおいて、該当するサーバーの[操作]列より、コマンド実行の操作ができます。

[操作]のメニューから表示される[コマンド操作]をクリックすると、以下の[コマンド実行]画面が表示されますので、必要な情報を設定してコマンドを実行します。



コマンド実行画面



サーバー名

サービス環境の構築申請時に申請したSystemwalkerマネージャーのサーバー名です。

種別

Systemwalker Centric ManagerおよびSystemwalker Operation Managerにおける、Systemwalkerマネージャーの種別です。

- CMGR(全体監視)
- CMGR(運用管理)
- CMGR(部門管理)
- OMGR

コマンド格納場所

Systemwalkerマネージャーで実行するコマンドが格納されたパスを選択します。

Systemwalker Centric Managerの場合

```
/opt/systemwalker/bin/
```

Systemwalker Operation Managerの場合

```
/opt/FJSVstem/bin/
```

```
/usr/bin/
```

実行コマンド

実行コマンドとコマンドオプションを入力します。

使用可能文字は、全角文字、半角英数字、半角スペース、および以下の記号です。

. - ' " % / _

ファイル指定の場合は、ファイル変数(%file1%)を入力します。

コマンドの記載例

```
mpcmcsv -m ADD -f %file1%
```

添付ファイル

ファイル指定が必要なコマンドの実行時に、ファイルを添付できます。

ファイルの指定は、ドラッグ＆ドロップ、または[添付ファイル]欄をクリックして表示されるエクスプローラー画面でファイルを選択します。

ファイル名の使用可能文字は、半角英数字および以下の記号です。

- . _

[実行]ボタン

入力されたコマンドを実行します。



注意

１台のサーバーに対して、同時に複数のコマンドを実行できません。

以下のようなエラーが表示された場合は、しばらく時間をおいてから、再度[実行]ボタンをクリックしてください。

```
実行に失敗しました：Another command is being executed on this manager
```

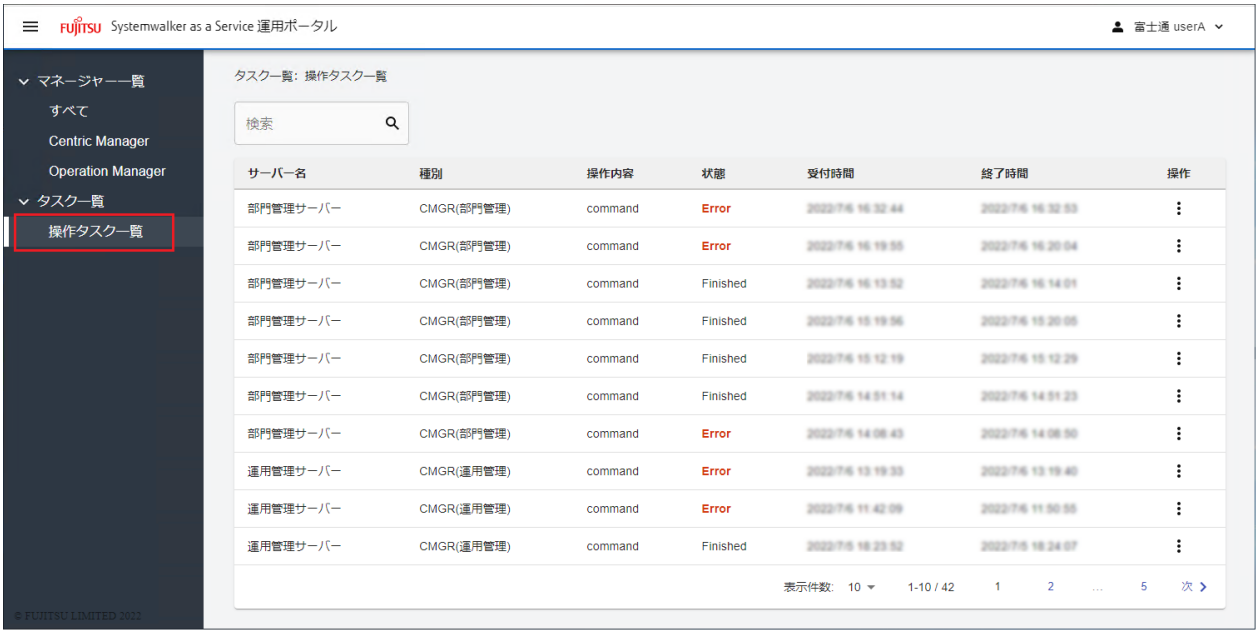
[戻る]ボタン

[マネージャー一覧]画面に戻ります。

2.1.4.3　操作タスク一覧画面

[操作タスク一覧]メニューから、Systemwalkerマネージャーに対してコマンド実行した操作タスクの一覧を参照できます。

1ページに表示できる操作タスクの件数は5件、10件、25件から選択可能で、デフォルトは10件です。
最大数を超えた場合は、テーブルフッターのページャーを使用して画面を切り替えることで、すべての操作タスクを確認できます。



サーバー名

サービス環境の構築申請時に申請したSystemwalkerマネージャーのサーバー名です。

種別

Systemwalker Centric ManagerおよびSystemwalker Operation Managerにおける、Systemwalkerマネージャーの種別です。

- CMGR(全体監視)
- CMGR(運用管理)
- CMGR(部門管理)
- OMGR

操作内容

Systemwalkerマネージャーに対して実施した操作の内容です。

状態

実施した操作の状態です。

状態	意味
Accepted	操作タスクを受け付けた状態
Running	操作タスクを実行し、Finished/Error状態が得られるまでの状態
Finished	操作タスクが正常終了した状態
Error	操作タスクが異常終了した状態

受付時間

操作タスクがAccepted状態に遷移した時間です。

終了時間

操作タスクがFinished/Error状態に遷移した時間です。

操作タスク一覧検索

[検索]の入力フォームから、すべての操作タスクを検索できます。

部分一致で検索され、検索条件に一致しない場合は、「結果が見つかりませんでした」と表示されます。

なお、一覧表示されている項目（サーバー名、種別、操作内容、状態、受付時間、終了時間）が検索対象となります。

入力文字をすべて削除すると、検索が解除されます。



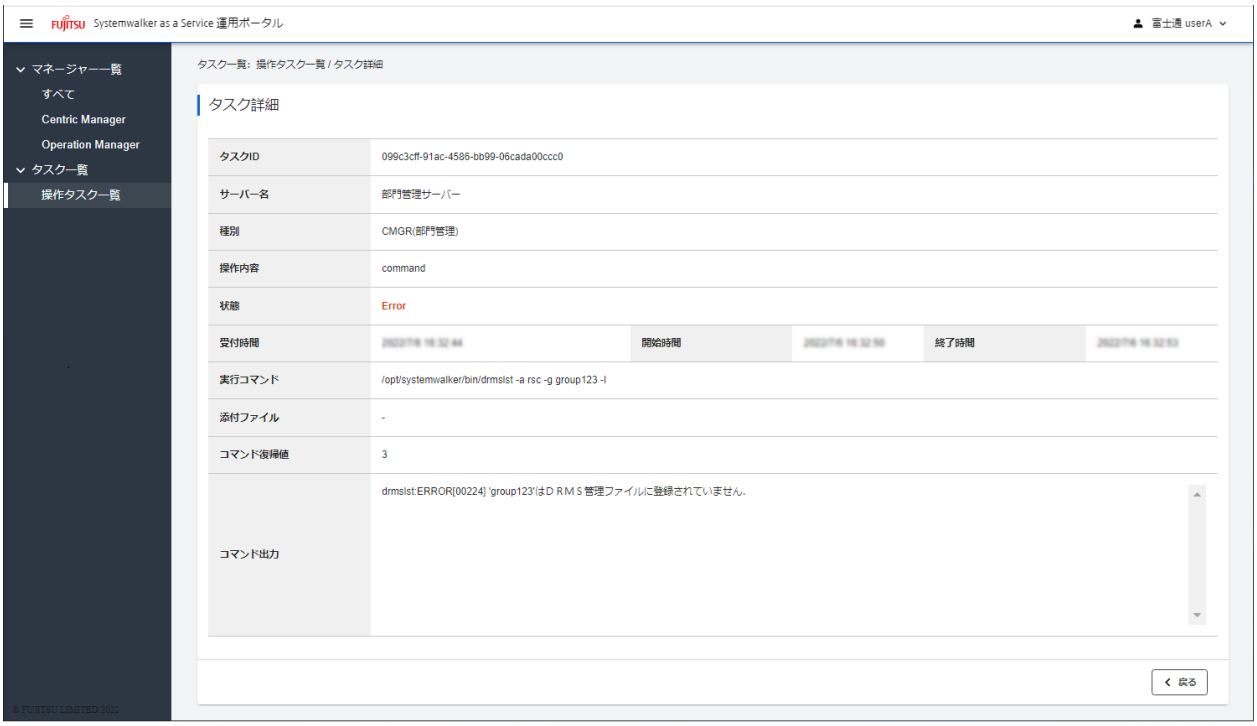
2.1.4.4　タスク詳細画面

Systemwalkerマネージャーにおいて、該当するサーバーの[操作]列より、コマンド実行した操作タスクの詳細情報を参照できます。

[操作]のメニューから表示される[詳細]をクリックすると、以下の[タスク詳細]画面が表示されます。



タスク詳細画面



タスクID

操作タスクに一意に割り当てられるIDです。

サーバー名

サービス環境の構築申請時に申請したSystemwalkerマネージャーのサーバー名です。

種別

Systemwalker Centric ManagerおよびSystemwalker Operation Managerにおける、Systemwalkerマネージャーの種別です。

- CMGR(全体監視)
- CMGR(運用管理)
- CMGR(部門管理)
- OMGR

操作内容

Systemwalkerマネージャーに対して実施した操作の内容です。

状態

実施した操作の状態です。

状態	意味
Accepted	操作タスクを受け付けた状態
Running	操作タスクを実行し、Finished/Error状態を得られるまでの状態
Finished	操作タスクが正常終了した状態
Error	操作タスクが異常終了した状態

受付時間

操作タスクがAccepted状態に遷移した時間です。

開始時間

操作タスクがRunning状態に遷移した時間です。

終了時間

操作タスクがFinished/Error状態に遷移した時間です。

実行コマンド

実行したコマンドライン文字列の形式で表示します。

コマンドライン文字列

```
{選択したコマンド格納場所}/コマンド オプション
```

添付ファイル

添付ファイル名を表示します。

コマンド復帰値

コマンド操作で実行したコマンドの復帰値、または「-」を表示します。

「-」の場合は、しばらく待ってから再度コマンドを実行してください。

「-」の表示が変わらない場合は、サービス窓口にお問い合わせください。

コマンド復帰値の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル
- Systemwalker Operation Manager リファレンス集

なお、運用ポータル独自の復帰値が表示される場合もあります。

コマンドの復帰値や出力内容から異常を解決できない場合は、サービス窓口にお問い合わせください。保守情報の採取は不要です。

コマンド出力

実行したコマンドの標準出力、標準エラー出力、または「-」を表示します。

「-」の場合は、しばらく待ってから再度コマンドを実行してください。

「-」の表示が変わらない場合は、サービス窓口にお問い合わせください。

コマンド標準出力および標準エラー出力の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル
- Systemwalker Operation Manager リファレンス集

なお、運用ポータル独自の出力が表示される場合もあります。

コマンドの復帰値や出力内容から異常を解決できない場合は、サービス窓口にお問い合わせください。保守情報の採取は不要です。

[戻る]ボタン

[操作タスク一覧]画面に戻ります。

2.2 統合管理（運用管理サーバ機能）

統合管理機能では、Systemwalker Centric Managerの「運用管理サーバ機能」を基本機能として提供します。

- 運用管理サーバ機能

  管理対象システムに対する監視定義を行うための機能です。監視ポリシーは「通常モード」で運用されます。

  Systemwalkerテンプレートが導入されており、テンプレートを利用した監視定義が可能です。

  運用管理サーバ機能は、ジョブ管理機能のスケジュールサーバと同一サーバ上で動作します。

冗長構成のサービスプランを選択した場合は、1:1運用待機のクラスタ構成となります。ジョブ管理のスケジュールサーバと同一のクラスタアプリケーションに登録されており、同時にフェイルオーバーします。

なお、サービス利用者は、Systemwalkerマネージャーのサーバーにログインできません。
そのため、サーバー上での操作が必要な場合は、サービス窓口への申請、または以下の代替手段を利用してください。

- ファイルサーバーによるログ確認
  - “2.2.1 Systemwalkerマネージャーのログ確認”
  - “2.2.2 Systemwalkerエージェントのログ確認”
- 運用ポータルによるコマンド実行
  - “2.2.3 Systemwalker Centric Managerのコマンド実行”
- Web APIによるSystemwalker Centric ManagerのAPI実行
  - “2.2.4 Systemwalker Centric ManagerのAPI実行”

Systemwalkerマネージャーのバックアップはサービス側で定期的に実施しています(定常バックアップ)。

また、バックアップは申請により任意のタイミングで行うこともできます（任意バックアップ)。

どちらもバックアップデータはAzure Blob Storageで保管します。

ログ情報（Systemwalker マネージャーのログ、Systemwalker エージェントのログ）はサービス側で定期的に収集しています(定常ログ収集)。

また、申請により任意のタイミングで収集することもできます（任意タイミングでのログ収集)。

どちらも収集したログはAzure Filesで保管します。

ポイント

- Systemwalkerコンソールの[監視イベント一覧]には、Systemwalker as a Serviceが提供するSystemwalkerマネージャーのイベントが表示されます。

  イベントを抑止したい場合は、[イベント監視の条件定義]画面で設定してください。
- 管理対象ノードや監視定義などにコメントを記載することで、これらの資源の整理に活用できます。設定できるコメントについては、以下のマニュアルを参照してください。
  - Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル

    “ファイルの形式”

注意

以下の操作は行わないでください。

- Systemwalkerマネージャーの構成変更や再起動を伴う設定変更（ポリシー配付は除く）
- Systemwalkerマネージャーの定常ログ収集または任意タイミングでのログ収集における、収集対象ログの設定変更(取得要否、取得先、取得量)

  例）MIB監視ログファイルの収集で使用するSystemwalkerコンソールの[ポリシー]設定における[MIBの値をロギングする]の設定変更 など

  例）インベントリ情報の収集で使用する[資源配付]ウィンドウの[drmspath]の設定変更 など

2.2.1 Systemwalkerマネージャーのログ確認

統合管理機能のSystemwalkerマネージャーでは、以下のログ情報を確認できます。

サーバ種別	ログ種別
運用管理サーバ	監視イベントログ
	ACLマネージャの監査ログ
	監視イベントのコリレーションログ
	MIB監査ログ
	インベントリ情報 (「DRMS管理ファイル/invsts」配下のファイル)

ログの確認方法

ログは、Systemwalker as a Serviceのファイルサーバーからダウンロードすることで、確認できます。

ファイルサーバー上のディレクトリおよびファイルの操作は、一般的なSFTPに準じます。

/logs/<ホスト名>配下に、以下の形式で圧縮されたファイルが格納されています。本領域に対するアクセス権は読み取り専用です。

```
* YYYY-MM-DDhhmmssCLOGC<ホスト名>.tar.gz
```

ファイルサーバー上には、5TiBのデータ領域が提供されます。

なお、運用管理サーバのデータ領域はスケジュールサーバと共有です。

容量を超過しそうな場合は、サービス窓口からサービス利用者に連絡させていただく場合があります。

ログの内容については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル
  - “ログ情報”
  - “構成情報”

2.2.2 Systemwalkerエージェントのログ確認

統合管理機能のSystemwalkerエージェントでは、以下のログ情報を確認できます。

サーバ種別	ログ種別
業務サーバ 実行サーバ	監査ログ管理機能を利用して収集するエージェントのログ

ログは、Systemwalker as a Serviceのファイルサーバーからダウンロードして確認できます。

ファイルサーバー上のディレクトリおよびファイルの操作は、一般的なSFTPに準じます。

そのSystemwalkerエージェントが属する運用管理サーバのSystemwalkerマネージャーのログに格納されています。

ログは、Systemwalker Centric Managerの監査ログ管理機能を利用しています。

監査ログ管理機能については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Centric Manager 使用手引書 セキュリティ編
  “監査ログを管理する”

2.2.3 Systemwalker Centric Managerのコマンド実行

運用ポータルの[コマンド実行]画面から実行できるSystemwalker Centric Managerのコマンドについて説明します。

各コマンドの詳細仕様については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル

コマンドの格納場所

```
/opt/systemwalker/bin/
```

運用管理サーバのコマンド

以下のコマンド、オプションを利用できます。

機能	コマンド	オプション		説明
構成管理情報のCSV入出力	mpcmcsv	-m ADD		構成情報登録(追加または更新)
		-m DEL		構成情報削除
		-f file		ファイルパス
		-s separator		CSVファイル内のフォルダパスで使用している区切り文字(1文字)を指定
クラスタ論理ノードの作成	mpcmclst.sh (注)	-a	-h	クラスタシステムのプライマリノードのホスト名
			-i	クラスタシステムの仮想IPアドレス
			-n	作成するクラスタ論理ノードのホスト名
クラスタ論理ノードの変更	mpcmclst.sh (注)	-m	-h	変更対象のクラスタ論理ノードのホスト名
			-i	変更後のIPアドレス
			-n	変更後のクラスタ論理ノードのホスト名
クラスタ論理ノードの削除	mpcmclst.sh (注)	-d	-h	削除対象のクラスタ論理ノードのホスト名
構成情報配付	mpdrpspa.sh	all		一括配付
ネットワーク管理ポリシー反映	mpnmpref	ホスト名 または IPアドレス		反映させたい管理サーバノードのホスト名、またはIPアドレス(複数指定可)

注）部門管理サーバが冗長構成の場合に指定可能です。

資源配付のコマンド

以下のコマンド、オプションを利用できます。

機能	コマンド	オプション		説明
資源属性情報の検索	drmslst	-a atr -l rsc	-g	資源グループ名
			-v	バージョン・レベル
			-p	製品名

機能	コマンド	オプション		説明
			-o	OS識別名
業務構成情報の検索	drmslst	-a job	-j	業務名
適用先IDの登録情報の検索	drmslst	-a lib	-l	適用先ID
			-S	適用先ディレクトリが共有ディスク用として定義されている場合に指定
メンテナンス版数の登録情報、送信状況および適用状況の検索	drmslst	-a rms	-v	メンテナンス版数名
			-e	メンテナンス版数の世代
			-l	出力オプション(dfn、add 、sts 、non)
			-m	オンライン検索先ドメイン名
			-s	出力システム名
			-k	検索するシステム種別(serv、own) オンライン検索するシステム種別(serv)
			-I	メンテナンス版数の登録情報の検索でファイル詳細情報を出力する場合に指定
			-G	クライアント資源のダウンロード種別を表示する場合に指定
			-X	全メンテナンス版数を検索/表示する場合に指定
			-H	検索対象システムの位置(own、other)
ユーザ資源データの登録情報の検索	drmslst	-a rsc	-g	資源グループ名
			-v	バージョン・レベル
			-e	世代識別名
			-i	詳細情報種別
			-I	ユーザ資源データの登録情報の検索でファイル詳細情報を出力する場合に指定
システム名の定義情報、送信状況および適用状況の検索	drmslst	-a sys	-k	検索するシステム種別(own、serv、ws) オンライン検索するシステム種別(serv、ws)
			-s	出力システム名
			-l	出力オプション(sys、rsc 、ptf 、puf 、job 、non)
			-g	資源グループ名
			-v	バージョン・レベル
			-m	オンライン検索先サーバ名
			-z	DRMS管理ファイル更新(all、no)
			-Y	クライアントの出力情報(non、mng、nomng 、all)
			-V	論理構成名表示の場合に指定

機能	コマンド	オプション		説明
			-G	クライアント資源のダウンロード種別を表示する場合に指定
			-H	検索対象システムの位置(own、other)
			-D	検索するシステムが、非隣接サーバ配下に接続されているクライアントの場合に、その非隣接サーバを指定
			-d	前回のオンライン検索からの差分によるオンライン検索を行うかどうかを指定(all、diff)
自システム名、あて先システム名を定義	drmsdfn	-a sys	-k	システム種別(own、serv、ws)
			-n	ノード名
			-s	システム名
			-c	コメント
			-l	システムの資源転送方式(keep、rel)
			-p	通信種別(tcp/ip、dts、http、https)
			-V	論理構成名
			-Y	クライアントのステータスを管理するかどうか(mng、nomng)
			-H	対象システムの位置(own、other)
			-D	ドメイン名
			-r	名前が使用可能かチェック
システム名または資源の送信状況および受信状況を削除	drmsdlt	-a sys	-k	システム種別(own、serv、ws)
			-s	システム名
			-d	削除オプション(rsc、ptf、puf)
			-N	最新の送信状況を削除
			-O	最古の送信状況を削除
			-l	修正番号
			-g	資源グループ名
			-v	バージョン・レベル
			-p	製品名
			-o	OS識別名
			-H	検索対象システムの位置(own、other)
			-D	ドメイン名
			-m	ドメイン名

2.2.4 Systemwalker Centric ManagerのAPI実行

Web APIとして実行できるSystemwalker Centric ManagerのAPIについて説明します。

アプリケーションから統合管理機能のWeb APIを実行することで、Systemwalker Centric ManagerのAPIを利用して監視イベントの操作ができます。

以下のAPIに対応しています。

Web API	対応API
change-event-stat	Mp_OpenEventStat（）関数
	Mp_ChangeEventStat（）関数
	Mp_CloseEventStat（）関数

認証には、OAuth認証情報を使用します。詳細は“2.1.3 ユーザーとAPI認証情報管理”を参照してください。

Web APIの詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker as a Service ユーザーズガイド

対応APIの詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Centric Manager API・スクリプトガイド

2.3 ジョブ管理

ジョブ管理機能は、Systemwalker Operation Managerのスケジュールサーバ機能を提供します。

- スケジュールサーバは、業務環境内の実行サーバにおけるジョブを管理します。
- ジョブ管理機能は、統合管理機能の運用管理サーバと同一サーバー上で動作します。
- サブシステムは0～9の10個を準備しています。
- マスタスケジュール管理機能、拡張ユーザー管理機能、ジョブの実行継続モードが有効です。
- 冗長構成のサービスプランを選択した場合は、1:1運用待機のクラスタ構成となります。統合管理機能の運用管理サーバと同一のクラスタアプリケーションに登録されており、同時にフェイルオーバーします。また、サブシステムはすべてクラスタ構成です。

なお、サービス利用者は、スケジュールサーバにログインできません。スケジュールサーバにログインして行う操作の代わりに、サービス窓口への申請、または以下を実施します。

- ファイルサーバーによるログ確認
  - 2.3.1 Systemwalkerマネージャーのログ確認
- 運用ポータルによるコマンド実行
  - 2.3.2 Systemwalker Operation Managerのコマンド実行

バックアップはサービス側で定期的に実施しています(定常バックアップ)。

また、バックアップは申請により任意のタイミングで行うこともできます（任意バックアップ)。

どちらもバックアップデータはAzure Blob Storageで保管します。

なお、ローカルジョブ用スクリプトはバックアップの対象外のため、利用者側でバックアップしてください。

ログ情報(Systemwalker マネージャーのログ)はサービス側で定期的に収集しています（定常ログ収集)。

また、申請により任意のタイミングで取得することができます（任意タイミングでのログ収集)。

どちらも収集されたログは、Azure Filesに保管されます。

ポイント

ジョブネットにメモを記載することで、これらの資源の整理に活用できます。

メモの設定については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Operation Manager リファレンスガイド

  “jobschnetmemoコマンド”

注意

- サービスの特性上、計画内・計画外に関わらず、クラスタ切り替えが発生する可能性があります。

  スケジュールサーバがクラスタ切り替えした場合でも、実行中のネットワークジョブが継続できるよう、以下のマニュアルを参照して設計してください。

  ー Systemwalker Operation Mnaager設計ガイド

  “障害発生時の業務の継続について検討する”

- 以下の操作は実施しないでください。

  ー Systemwalkerマネージャーの再起動が必要となる設定変更および再起動操作

  例）環境設定クライアントの［Systemwalker Operation Manager環境設定］ウィンドウでの共通パラメタ変更、およびデーモン制御によるデーモンの開始・停止など

  ー Systemwalkerマネージャーの定常ログ収集または任意タイミングでのログ収集における、収集対象ログの設定変更(取得要否、取得先、取得量)

  例）ジョブネット実行履歴情報の収集で使用する環境設定クライアントの［運用情報の定義］ウィンドウー［ログ］シートの設定変更 など

2.3.1 Systemwalkerマネージャーのログ確認

ジョブ管理機能のSystemwalkerマネージャーでは、以下のログ情報を確認できます。

サーバ種別	ログ種別	
スケジュールサーバ	ジョブネット実行履歴情報	以下のコマンドの出力結果 - 「jobschprintcsv -g」コマンド - 「jobschprintcsv -n」コマンド
	ジョブネットの運用予定一覧	以下のコマンドの出力結果 - 「jobschprintcsv -l」コマンド
	ジョブスケジューラのログ	ジョブスケジューラのデータベースディレクトリ配下にある以下のファイル - jobdb1.log/jobdb2.log/jobdb3.log
	監査ログ	以下のディレクトリ配下に格納されている監査ログファイル - /var/opt/FJSVftlo/audit
	mjsview ログファイル出力コマンドで出力されるジョブの実行履歴	—
	ジョブの出力情報 (標準出力/エラー出力)	以下のディレクトリ配下に格納されているジョブの標準出力および標準エラー出力を格納したファイル - /var/opt/FJSVJOBSC

サーバ種別	ログ種別	
	メッセージ事象発生履歴ファイル	—

ログは、Systemwalker as a Serviceのファイルサーバーからダウンロードすることで、確認できます。

ファイルサーバー上のディレクトリおよびファイルの操作は、一般的なSFTPに準じます。

/logs/<ホスト名>配下に以下の形式で圧縮されたファイルが格納されています。本領域に対するアクセス権は読み取り専用です。

```
＊ YYYY-MM-DDhhmmssCLOGO<ホスト名>.tar.gz
```

ファイルサーバー上には、スケジュールサーバごとに5TiBのデータ領域が提供されます。

なお、スケジュールサーバのデータ領域は運用管理サーバと共有です。

容量を超過しそうな場合は、サービス窓口からサービス利用者に連絡させていただく場合があります。

ログの内容については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Operation Manager リファレンス集
  - ー“ログファイル”
  - ー“メッセージ事象発生履歴ファイル”

2.3.2 Systemwalker Operation Managerのコマンド実行

運用ポータルの[コマンド実行]画面から実行できるSystemwalker Operation Managerのコマンドについて説明します。

各コマンドの詳細仕様については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Operation Manager リファレンス集

コマンドの格納場所

- stemSetPrjMaster.shコマンド、stemCopyProjectコマンド

```
/opt/FJSVstem/bin/
```

- jobschsetnetコマンド

```
/usr/bin/
```

スケジュールサーバのコマンド

以下のコマンド、オプションを利用できます。

機能	コマンド	オプション	説明
プロジェクトマスタ設定	stemSetPrjMaster.sh	set	マスタ設定
		del	マスタ設定解除
		-p	対象プロジェクト名
		-sys	サブシステム番号(0～9)
運用変更事前設定コマンド	stemCopyProject	なし	対象のマスタプロジェクト名
		-d	リリース日(mmdd形式)
		-sys	サブシステム番号(0～9)

機能	コマンド	オプション	説明
ジョブネット登録	jobschsetnet	-nent	プロジェクト名、定義ファイル
		-sys	サブシステム番号(0～9)
ジョブネット変更	jobschsetnet	-nche	プロジェクト名、定義ファイル
		-ncheall	プロジェクト名、定義ファイル
		-sys	サブシステム番号(0～9)
ジョブネット削除	jobschsetnet	-ndel	[プロジェクト名/]ジョブネット名
		-mod	モード(0、1)
		-sys	サブシステム番号(0～9)
ジョブネット複写	jobschsetnet	-ncpy	[複写元プロジェクト名/]複写元ジョブネット名、[複写先プロジェクト名/]複写先ジョブネット名
		-sys	サブシステム番号(0～9)
ジョブネットの起動日、メッセージ事象および一時変更情報の登録	jobschsetnet	-sent	プロジェクト名、定義ファイル
		-sys	サブシステム番号(0～9)
ジョブネットの起動日、メッセージ事象および一時変更情報の削除	jobschsetnet	-sdel	[プロジェクト名/]ジョブネット名
		SCH	起動日だけを削除
		MSG	メッセージ事象だけを削除
		TMP	一時変更情報だけを削除
		-sys	サブシステム番号(0～9)

第3章 オプション機能詳細

本章では、Systemwalker as a Serviceのオプション機能について説明します。

なお、これらの機能を利用するには、別途オプションサービスとしての契約が必要です。

3.1 統合管理（全体監視サーバ機能・部門管理サーバ機能）

統合管理機能では、Systemwalker Centric Managerの「全体監視サーバ機能」および「部門管理サーバ機能」をオプション機能として提供します。

冗長構成のサービスプランを選択した場合は、1:1運用待機のクラスタ構成となります。ジョブ管理の運用管理サーバと同一のクラスタアプリケーションに登録されており、同時にフェイルオーバーします。

全体監視サーバ機能

業務環境全体の監視を行います。
ただし、以下の機能は利用できません。

- 資源配付
- 性能監視
- 稼働監視
- リモート操作
- 返答メッセージ

部門管理サーバ機能

業務環境全体の監視および資源配付は、部門管理サーバを経由して実施されます。

なお、サービス利用者は、Systemwalkerマネージャーのサーバーにログインできません。
そのため、サーバー上での操作が必要な場合は、サービス窓口への申請、または以下の代替手段を利用してください。

- ファイルサーバーによるログ確認
  - “3.1.1 Systemwalkerマネージャーのログ確認”
- 運用ポータルによるコマンド実行
  - “3.1.2 Systemwalker Centric Managerのコマンド実行”
- Web APIによるSystemwalker Centric ManagerのAPI実行

  Web APIは、全体監視サーバに対して実行できます。
  - “2.2.4 Systemwalker Centric ManagerのAPI実行”

Systemwalkerマネージャーのバックアップはサービス側で定期的に実施しています(定常バックアップ)。

また、バックアップは申請により任意のタイミングで行うこともできます（任意バックアップ)。

どちらもバックアップデータはAzure Blob Storageで保管します。

ログ情報（Systemwalker マネージャーのログ、Systemwalker エージェントのログ）はサービス側で定期的に収集しています(定常ログ収集)。

また、申請により任意のタイミングで収集することもできます（任意タイミングでのログ収集)。

どちらも収集したログはAzure Filesで保管します。

ポイント

- Systemwalkerコンソールの[監視イベント一覧]には、Systemwalker as a Serviceが提供するSystemwalkerマネージャーのイベントが表示されます。

  イベントを抑止したい場合は、[イベント監視の条件定義]画面で設定してください。

- 管理対象ノードや監視定義などにコメントを記載することで、これらの資源の整理に活用できます。設定できるコメントについては、以下のマニュアルを参照してください。

  ー Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル

  “ファイルの形式”

注意

以下の操作は行わないでください。

- Systemwalkerマネージャーの構成変更や再起動が必要となる設定の変更（ポリシー配付は除く）

  例）全体監視サーバの[システム監視設定]における[サーバ間連携定義]の設定変更 など

- Systemwalkerマネージャーの定常ログ収集または任意タイミングでのログ収集における、収集対象ログの設定変更(取得要否、取得先、取得量)

  例）MIB監視ログファイルの収集で使用するSystemwalkerコンソールの[ポリシー]設定における[MIBの値をロギングする]の設定変更 など

  例）インベントリ情報の収集で使用する[資源配付]ウィンドウの[drmspath]の設定変更 など

3.1.1 Systemwalkerマネージャーのログ確認

統合管理機能のSystemwalkerマネージャーでは、以下のログ情報を確認できます。

サーバ種別	ログ種別
全体監視サーバ	ACLマネージャの監査ログ
部門管理サーバ	ACLマネージャの監査ログ
	MIB監視ログ
	インベントリ情報 （「DRMS管理ファイル/invsts」配下のファイル）

ログの確認方法については、“ログの確認方法”を参照してください。

3.1.2 Systemwalker Centric Managerのコマンド実行

運用ポータルの[コマンド実行]画面から実行できるSystemwalker Centric Managerのコマンドについて説明します。

各コマンドの詳細仕様については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Centric Manager リファレンスマニュアル

コマンドの格納場所

```
/opt/systemwalker/bin/
```

全体監視サーバのコマンド

以下のコマンド、オプションを利用できます。

機能	コマンド	オプション	説明
シングルサイト型ノード移入	mpcmsumt.sh	ファイル名	移入するノード情報のファイル名

部門管理サーバのコマンド

資源配付コマンドにおいて、以下のコマンド、オプションを利用できます。

機能	コマンド	オプション		説明
資源属性情報の検索	drmslst	-a atr -l rsc	-g	資源グループ名
			-v	バージョン・レベル
			-p	製品名
			-o	OS識別名
			--swaas-h	【運用ポータル独自オプション】実行対象ノードを指定 (注)
業務構成情報の検索	drmslst	-a job	-j	業務名
			--swaas-h	【運用ポータル独自オプション】実行対象ノードを指定 (注)
適用先IDの登録情報の検索	drmslst	-a lib	-I	適用先ID
			-S	適用先ディレクトリが共有ディスク用として定義されている場合に指定
			--swaas-h	【運用ポータル独自オプション】実行対象ノードを指定 (注)
メンテナンス版数の登録情報、送信状況および適用状況の検索	drmslst	-a rms	-v	メンテナンス版数名
			-e	メンテナンス版数の世代
			-l	出力オプション(dfn、add 、sts 、non)
			-m	オンライン検索先ドメイン名
			-s	出力システム名
			-k	検索するシステム種別(serv、own) オンライン検索するシステム種別(serv)
			-I	メンテナンス版数の登録情報の検索でファイル詳細情報を出力する場合に指定
			-G	クライアント資源のダウンロード種別を表示する場合に指定
			-X	全メンテナンス版数を検索/表示する場合に指定
			-H	検索対象システムの位置(own、other)
			--swaas-h	【運用ポータル独自オプション】実行対象ノードを指定 (注)

機能	コマンド	オプション		説明
ユーザ資源データの登録情報の検索	drmslst	-a rsc	-g	資源グループ名
			-v	バージョン・レベル
			-e	世代識別名
			-i	詳細情報種別
			-l	ユーザ資源データの登録情報の検索でファイル詳細情報を出力する場合に指定
			--swaas-h	【運用ポータル独自オプション】実行対象ノードを指定 (注)
システム名の定義情報、送信状況および適用状況の検索	drmslst	-a sys	-k	検索するシステム種別(own、serv、ws) オンライン検索するシステム種別(serv、ws)
			-s	出力システム名
			-l	出力オプション(sys、rsc 、ptf 、puf 、job 、non)
			-g	資源グループ名
			-v	バージョン・レベル
			-m	オンライン検索先サーバ名
			-z	DRMS管理ファイル更新(all、no)
			-Y	クライアントの出力情報(non、mng、nomng 、all)
			-V	論理構成名表示の場合に指定
			-G	クライアント資源のダウンロード種別を表示する場合に指定
			-H	検索対象システムの位置(own、other)
			-D	検索するシステムが、非隣接サーバ配下に接続されているクライアントの場合に、その非隣接サーバを指定
			-d	前回のオンライン検索からの差分によるオンライン検索を行うかどうかを指定(all、diff)
			--swaas-h	【運用ポータル独自オプション】実行対象ノードを指定 (注)
自システム名、あて先システム名を定義	drmsdfn	-a sys	-k	システム種別(own、serv、ws)
			-n	ノード名
			-s	システム名
			-c	コメント
			-l	システムの資源転送方式(keep、rel)

機能	コマンド	オプション		説明
			-p	通信種別(tcp/ip、dts、http、https)
			-V	論理構成名
			-Y	クライアントのステータスを管理するかどうか(mng、nomng)
			-H	対象システムの位置(own、other)
			-D	ドメイン名
			-r	名前が使用可能かチェック
			--swaas-h	【運用ポータル独自オプション】実行対象ノードを指定 (注)
システム名または資源の送信状況および受信状況を削除	drmsdlt	-a sys	-k	システム種別(own、serv、ws)
			-s	システム名
			-d	削除オプション(rsc、ptf、puf)
			-N	最新の送信状況を削除
			-O	最古の送信状況を削除
			-l	修正番号
			-g	資源グループ名
			-v	バージョン・レベル
			-p	製品名
			-o	OS識別名
			-H	検索対象システムの位置(own、other)
			-D	ドメイン名
			-m	ドメイン名
			--swaas-h	【運用ポータル独自オプション】実行対象ノードを指定 (注)

注)

- 本オプションは、運用ポータルの独自オプションです。冗長構成のサービスプランの場合に指定可能です。
  指定方法は、以下のとおりです。

```
[--swaas-h 1|2]
```

  - 「--swaas-h 1」を指定した場合、プライマリノードに対してコマンドが実行されます。
  - 「--swaas-h 2」を指定した場合、セカンダリノードに対してコマンドが実行されます。
  - オプションを省略した場合、その時点での運用系ノードに対してコマンドが実行されます。
- 冗長構成のサービスプランではない場合、本オプションを指定すると、コマンド実行後に[タスク詳細]画面に以下のエラーが表示されます。
  - コマンド復帰値： 200
  - コマンド出力：The --swaas-h option is specified for a non-cluster manager.

この場合は、本オプションを指定せずに再度実行してください。

3.2 スクリプト実行

Systemwalker as a Serviceが提供するスクリプト実行機能について説明します。

本機能を利用することで、スケジュールサーバ上で、ローカルジョブ用スクリプトを実行することができます。
ローカルジョブ用スクリプトを使用することで、スケジュールサーバから実行するネットワークジョブを操作し、ジョブネット間の連携を図ることができます。

利用者が作成したローカルジョブ用スクリプトは、ファイルサーバー上に配置し、スケジュールサーバごとに管理できます。

ファイルサーバー上のディレクトリおよびファイルの操作は、一般的なSFTPに準じます。

なお、ファイルサーバー上には、スケジュールサーバごとに20GBのデータ領域が提供されます。

注意

- 「サービス環境情報」に記載されたデータ領域のみ利用してください。
- 本データ領域はバックアップの対象外のため、利用者側でバックアップしてください。
- ジョブの実行には、ジョブ管理機能のOSユーザー(一般ユーザー)を使用してください。
  また、スクリプトを管理者権限で実行(sudo付与しての実行)しないでください。
- ファイルサーバー上のタイムスタンプやパーミッションは変更できません。利用するSFTPクライアントにおける該当の設定は無効化してください。
- 管理者権限が必要なコマンドをスクリプト内で実行したい場合は、サービス窓口にお問い合わせください。
- サービスの特性上、計画内・計画外に関わらず、クラスタ切り替えが発生する可能性があります。
  クラスタ切り替えが発生した場合、ローカルジョブは異常終了します。

  スケジュールサーバの異常発生時にも業務を継続できるよう、以下のマニュアルを参照して設計してください。

  ー Systemwalker Operation Manager クラスタ適用ガイド UNIX編

  “ジョブを再起動させる設定”

3.3 Disaster Recovery

Systemwalker as a ServiceのDisaster Recovery機能について説明します。

Systemwalker as a Serviceでは、Azure東日本リージョンで災害が発生した際に、稼働拠点をAzure西日本リージョンへ切り替えることで、業務を継続することが可能です。

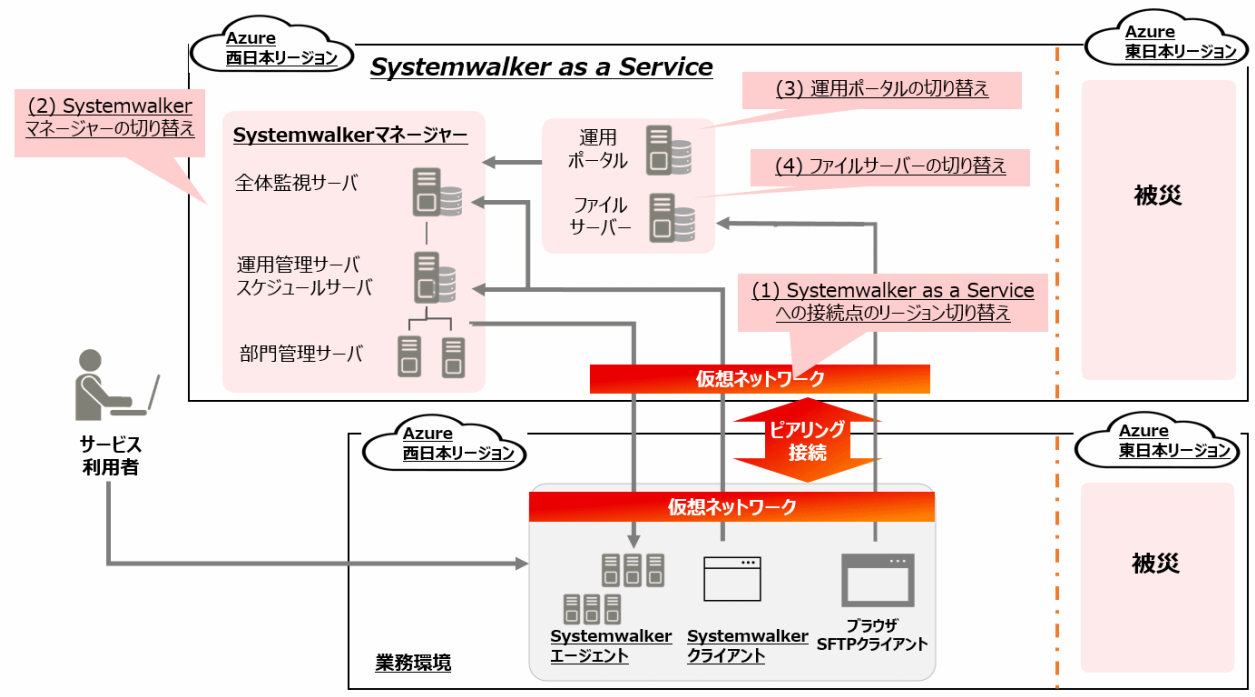
なお、Azure東日本リージョンが復旧次第、Azure東日本リージョンへ再度切り替え(切り戻し)ます。

Disaster Recoveryの契機

Systemwalker as a Serviceにより切り替えが必要と判断された場合、すべてのサービス利用者に対して切り替え日時が連絡されます。あわせて、業務環境側でも必要な切り替え操作を実施してください。

Disaster Recoveryによる切り替え

Disaster Recoveryにより、(1)から(4)で切り替えが行われます。



注）業務環境は、サービス利用者が準備します。

(1) Systemwalker as a Serviceへの接続点の切り替え

Systemwalker as a Serviceでは、業務環境との接続点となる仮想ネットワークを、東日本リージョンおよび西日本リージョンに常設しています。どちらのリージョンの接続点も、平時から業務環境の仮想ネットワークとAzureの仮想ネットワークピアリングによって接続します。

Disaster Recoveryの各タイミングにおいて、以下の接続点からサービスを利用することができます。

- 切り替え後：西日本リージョンの接続点
- 平時／切り戻し後：東日本リージョンの接続点

Systemwalker as a Serviceと業務環境の接続構成には、同一リージョン構成と可変リージョン構成があります。

Systemwalker as a Serviceと業務環境の接続構成については、“付録B Disaster Recoveryにおける接続構成”も参照してください。

(2) Systemwalkerマネージャーの切り替え

Systemwalkerマネージャーは、「定常バックアップ設定申請」および「任意バックアップ申請」で取得されている最新のバックアップデータでリストアされます。

リストア後、ジョブ管理機能のSystemwalkerマネージャーは、以下の設定で提供されます。

- 動作中状態(注）のジョブネット・ジョブは強制停止
- ジョブネット・ジョブの無効化

注）ジョブネットの状態(Status)が以下であるもの

- Warning：警告
- Execute：実行中
- EndDelay：終了遅延

(3) 運用ポータルの切り替え

データ引継ぎの完全性は保証しません。操作タスク一覧メニューにおける切り替え前のリージョンでの情報は、参考情報として参照ください。

(4) ファイルサーバーの切り替え

Systemwalkerマネージャーのログ/Systemwalkerエージェントのログ

Disaster Recoveryの実施日時までに取得されたログが保持されます。さらにSystemwalkerマネージャーのログは、切り替え直後にサービス側で採取したログも格納されます。

Systemwalker Operation Managerのローカルジョブ用スクリプト

Disaster Recoveryの実施時点のデータ領域が保持されます。リージョン間のデータ領域の同期は非同期処理であるため、切り替え前後でデータのずれが発生します。データの更新日時を確認の上、業務を再開してください。

注意

- 切り替え中は、定常バックアップと定常ログ収集のスケジュールは一時的に無効化されます。そのため、切り替え中に該当日時になっても、スケジュールは動作しません。
- 切り替えにより、任意バックアップ申請や任意タイミングでのログ収集申請で申請していたスケジュールは削除されます。切り替え後、必要に応じて再度申請してください。
- 被災時に切り替え可能なのは、東日本リージョンから西日本リージョンの方向だけです。西日本リージョンへの切り替え後は、東日本リージョンが復旧次第、サービス窓口よりご連絡しますので、速やかに切り戻し計画を策定してください。
- Systemwalker as a Serviceが西日本リージョンで稼働している場合は、構成の変更はできません。

参考

- 本機能に関連して、地理的に分散した対応要員の配置や、Systemwalker as a Serviceが依存しているシステムの災害対策の確認などを通じて、被災時の切り替え実現性を高めています。ただし、複数地域に影響が及ぶ災害が発生した場合など、すべて災害において切り替えを保証するものではありません。
- 災害発生前には、Azureの西日本リージョンのリソースを予約していないため、リソース不足により切り替えに失敗する可能性があります。
  災害発生前からリソースの予約を希望される場合は、サービス窓口までご相談ください。
- 平時に西日本リージョンで稼働する業務環境が被災した場合については、“B.2 可変リージョン構成”を参照してください。

3.4 オンプレミス連携

既存の業務環境で運用されているSystemwalker Centric Managerの運用管理サーバや部門管理サーバを、Systemwalker マネージャーに接続することができます。

サービス利用者の業務環境で運用されている運用管理サーバ、部門管理サーバ、およびそれらに接続している業務サーバをSystemwalkerマネージャーと連携することで、Systemwalker マネージャーから管理できます。

業務環境の運用管理サーバの接続のためには、オプション契約が必要です。
業務環境の部門管理サーバの接続、および業務環境の部門管理サーバを経由して接続するSystemwalker Centric Managerの業務サーバについては、オプションの追加は不要です

第4章 動作環境

本章では、Systemwalker as a Serviceの動作環境について説明します。

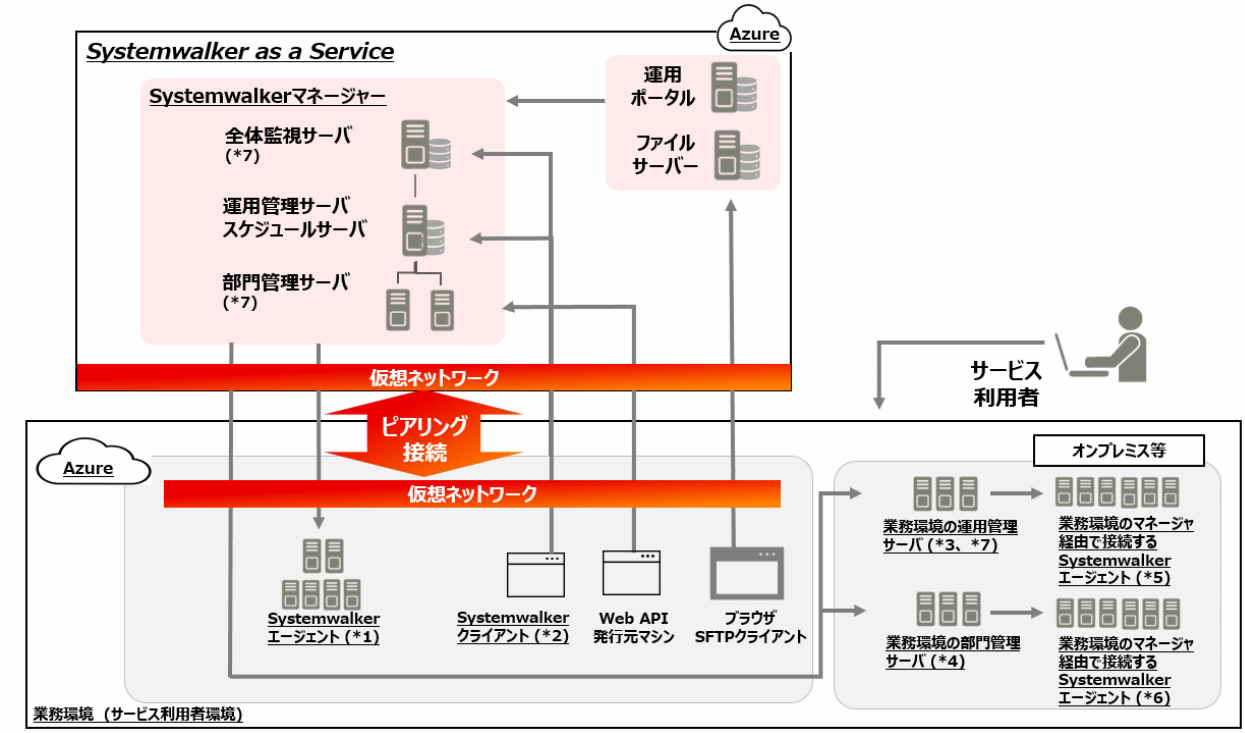
4.1 Systemwalker as a Serviceの動作環境

Systemwalker as a Serviceでは、Azureの東日本リージョン上にSystemwalkerマネージャー、運用ポータル、およびファイルサーバーを提供します。なお、対応言語は日本語のみです。

Systemwalker as a Serviceは、サービス利用者が準備する業務環境とAzureの仮想ネットワークピアリングで接続します。仮想ネットワークピアリングは、業務環境の仮想ネットワークとSystemwalker as a Serviceの仮想ネットワークからの双方向から設定する必要があります。

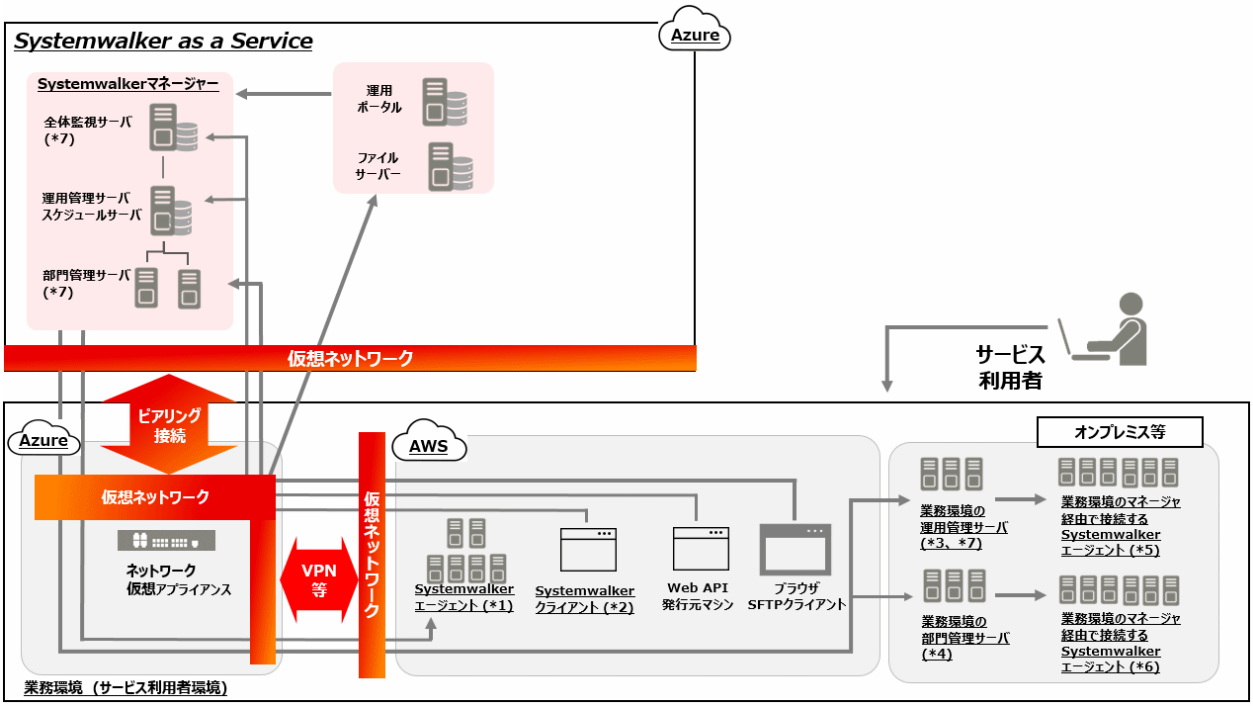
Systemwalker as a Serviceと業務環境の構成は、以下のとおりです。

【Azureの業務環境と接続する場合】



*1) Systemwalker Centric Manager 業務サーバ、Systemwalker Operation Manager 実行サーバ
*2) Systemwalker Centric Manager 運用管理クライアント、Systemwalker Operation Manager クライアント
*3) Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ
*4) Systemwalker Centric Manager 部門管理サーバ
*5) Systemwalker Centric Manager 部門管理サーバ、Systemwalker Centric Manager 業務サーバ
*6) Systemwalker Centric Manager 業務サーバ
*7) オプション機能を契約することで利用可能

【AWSの業務環境と接続する場合】



*1) Systemwalker Centric Manager 業務サーバ、Systemwalker Operation Manager 実行サーバ
*2) Systemwalker Centric Manager 運用管理クライアント、Systemwalker Operation Manager クライアント
*3) Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ
*4) Systemwalker Centric Manager 部門管理サーバ
*5) Systemwalker Centric Manager 部門管理サーバ、Systemwalker Centric Manager 業務サーバ
*6) Systemwalker Centric Manager 業務サーバ
*7) オプション機能を契約することで利用可能

注意

業務環境は、サービス利用者が準備します。

Systemwalker as a Serviceが提供する環境について

- Systemwalkerマネージャーの種別
  - 統合管理
    運用管理サーバ
    全体監視サーバ
    部門管理サーバ
  - ジョブ管理
    スケジュールサーバ
- Systemwalkerマネージャーで動作するソフトウェア
  - 統合管理
    Linux 64bit版 Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V17.0.4

ー ジョブ管理

Linux 64bit版 Systemwalker Operation Manager Enterprise Edition V17.1.0

- Systemwalkerマネージャーが動作するサーバー情報

項目	値
OSのロケール	ja_JP.UTF-8
タイムゾーン	日本標準時(JST) 注）Microsoft提供のNTPサーバーにより時刻同期しています。
IPv6設定	無効
ネットワークインターフェイス（NIC）	複数
Systemwalkerマネージャーの定常バックアップ	・ 毎日01:00(JST)にバックアップを実行 ・ サービス内で3世代保持 注）上記の項目を変更する場合、サービス窓口に申請します。
Systemwalkerマネージャーのログ定期収集	・ 毎日23:55(JST)にログを収集 ・ サービス内で最新90日分を保持 注）上記の項目を変更する場合、サービス窓口に申請します。
サーバーリソースの占有有無	マネージャーごとにサーバー（Azureの仮想マシン）を占有します。ただし、スケジュールサーバと運用管理サーバは、同一サーバーを共有します。また、仮想マシンが稼働するホストは、Azureの他の利用者と共有します。

- Systemwalkerマネージャーが動作するサーバーの最大数

最大で40台

- Systemwalkerマネージャーのサーバースペック

項目	値
CPU数	4
メモリ量	16GB
ネットワーク帯域	最大10000MB/S

サービス利用者が準備する環境について

業務環境

Systemwalker as a Serviceとの接続のため、Azure上に以下の環境が必要です。

ー Systemwalker as a Serviceに接続する業務環境のAzure仮想ネットワーク（Azure Virtual Network）

Systemwalker as a Serviceから、Azureの仮想ネットワークピアリングを通じて接続します。

Systemwalker as a Serviceにハブスポーク構成のハブネットワークを接続することで、ハブネットワークを経由して、スポークネットワークと接続することも可能です。

ー 仮想ネットワークピアリングを設定するためのアカウント

本アカウントを利用して、業務環境の仮想ネットワークからSystemwalker as a Serviceの仮想ネットワークへピアリングを設定します。
業務環境の仮想ネットワークに対するネットワーク共同作成者のロールが割り当てられている必要があります。

また、Systemwalker as a Serviceで利用するMicrosoft Entra IDにゲストとして参加します。

サービス利用者の業務環境として、以下の環境が必要です。

- 運用ポータルへの接続元マシン

  運用ポータルには、上記Systemwalker as a Serviceに接続する業務環境の仮想ネットワーク経由してWebブラウザで接続します。

  この間の通信は、TLSv1.2以上により暗号化されます。また、当該マシンはインターネット接続が可能である必要があります。

- SystemwalkerエージェントおよびSystemwalkerクライアント

  Systemwalkerマネージャーには、Systemwalker as a Serviceに接続する業務環境の仮想ネットワークを通じて接続します。

- ファイルサーバーに接続するためのSFTPクライアント

  ファイルサーバーには、上記Systemwalker as a Serviceに接続する業務環境の仮想ネットワークを通じてSFTPで接続します。

- 統合管理機能のWeb API発行元マシン

  統合管理機能のSystemwalkerマネージャーには、上記Systemwalker as a Serviceに接続する業務環境の仮想ネットワークを通じて接続します。

  この間の通信は、TLSv1.2以上により暗号化されます。また、当該マシンはインターネット接続が可能である必要があります。

また、以下の環境をSystemwalker as a Serviceに接続することができます。

- 業務環境の運用管理サーバ
- 業務環境の部門管理サーバ

これらのサーバは、Systemwalker as a Serviceに接続する業務環境の仮想ネットワークを通じて、Systemwalkerマネージャーに接続します。

上記以外に、以下が必要になります。

- 時刻同期には、一般的なNTPサーバーを使用してください。
- 構築サービス内で通知されるSystemwalker as a Serviceのアカウントを、業務環境のMicrosoft Entra IDのB2B コラボレーション機能を用いてゲストユーザーとして招待してください。
  ゲストユーザーには、業務環境の仮想ネットワークに対してピアリングを作成するための権限を付与する必要があります。

ポイント

- **データ保管先について**

  Systemwalker as a Serviceは仮想ネットワークピアリングでのみのアクセスが可能であり、お客様のデータはインターネットからアクセスできないネットワーク上に保存されます。

- **Systemwalker Centric ManagerにおけるSNMP利用について**

  Systemwalker as a Serviceでは、SNMPv3プロトコルとAESの暗号アルゴリズムの利用を推奨しています。
  SNMPv1やSNMPv2プロトコル、DES/3DESの暗号アルゴリズムも利用可能ですが、脆弱性が報告されているため、お客様自身の責任において利用してください。なお、SNMPv1やSNMPv2を利用する場合は、コミュニティ名をpublicから変更して利用してください。

- **Systemwalker as a Serviceで使用するサーバー証明書について**

  Systemwalker as a Serviceでは独自の認証局を設置しており、TLSによる暗号化通信には、その認証局が発行したサーバー証明書を使用しています。
  そのため、各接続元マシンに当該認証局の証明書をインストールして利用してください。

4.2 Systemwalker as a Serviceがサポートする業務環境

Systemwalker as a Serviceでサポートする業務環境について説明します。

サポート環境

- Azureの日本国内リージョン

  お客様のAzure環境はデプロイメントモデルとして、Azure Resource Manager デプロイが使用されている場合のみサポートします。

- AWSの日本国内リージョン

  お客様のAzure環境から閉域網を経由して通信可能な環境のみサポートします。

  ただし、通信経路はお客様側で担保する必要があります。

- オンプレミス環境など、その他の環境

  お客様のAzure環境から閉域網を経由して通信可能な環境のみサポートします。

  ただし、通信経路はお客様側で担保する必要があります。

Systemwalker as a Serviceとの接続方法

Azureの仮想ネットワークピアリングでの接続方式のみサポートします。複数の仮想ネットワークとピアリングすることも可能です。

Systemwalkerエージェント、Systemwalkerクライアント

以下の製品のサポート範囲と同じです。

ー Linux(64bit)版 Systemwalker Centric Manager V17.0.4

ー Linux(64bit)版 Systemwalker Operation Manager V17.1.0

詳細は、各製品のマニュアルを参照してください。

業務環境の運用管理サーバや部門管理サーバ、および業務環境のマネージャ経由で接続するSystemwalkerエージェント

Systemwalkerマネージャーと連携できる範囲は、以下の製品のサポート範囲と同じです。

ー Linux(64bit)版 Systemwalker Centric Manager V17.0.4

詳細は、製品のマニュアルを参照してください。

運用ポータルの利用ブラウザ

- Google Chrome 114以降

  日本語のみサポートします。また、表示サイズ1366×768以上を推奨します。

  CookieおよびJavascriptを有効にしてください。

注意

Systemwalker as a Serviceは、業務環境と閉域網で接続することを前提に設計されています。暗号化されていない通信も使用することがあるため、Systemwalker as a Serviceから接続されるお客様ネットワークについては、お客様自身で安全性を確保してください。また、お客様環境内で、インターネット上の不特定多数のクライアントからSystemwalker as a Serviceに通信可能となる構成は避けてください。

4.3 ネットワーク情報

Systemwalker as a Serviceで使用するネットワークアドレスとポート番号について説明します。

業務環境でファイアウォール等による通信制御をしている場合は、必要に応じて通信を許可してください。

ネットワークアドレス

初期構築時の構築申請において、Systemwalker as a Service側のネットワークアドレスは、プライベートIPアドレスの範囲から指定してください。

このアドレスは業務環境と重複できず、また、初期構築後の変更できません。

業務環境側のIPアドレスは、上記で申請したSystemwalker as a Serviceで使用する範囲を除いたプライベートIPアドレスを使用してください。

プライベートIPアドレスは以下のとおりです。

- 10.0.0.0/8
- 172.16.0.0/12
- 192.168.0.0/16

ポート番号

- 運用ポータル
  - 番号：443/tcp
    送信元：運用ポータルへの接続元マシン
    送信先：運用ポータル
  - 番号：443/tcp
    送信元：運用ポータルへの接続元マシン
    送信先：インターネット
- 統合管理

  Systemwalker Centric Managerに準拠します。

  また、Web API機能で以下の通信を使用します。
  - 番号：443/tcp
    送信元：Web API発行元マシン
    送信先：全体監視サーバ、運用管理サーバ
  - 番号：443/tcp
    送信元：Web API発行元マシン
    送信先：インターネット
- ジョブ管理

  Systemwalker Operation Managerに準拠します。

また、サブシステム1～9で使用するサービス名とポート番号は、以下のとおりです。

サブシステム	ジョブスケジューラ		ネットワークジョブ	
	サービス名	ポート番号	サービス名	ポート番号
1	jobsch_win1	9298/tcp	mjsnet1	9328/tcp
2	jobsch_win2	9299/tcp	mjsnet2	9329/tcp
3	jobsch_win3	9300/tcp	mjsnet3	9330/tcp
4	jobsch_win4	9301/tcp	mjsnet4	9331/tcp
5	jobsch_win5	9302/tcp	mjsnet5	9332/tcp
6	jobsch_win6	9303/tcp	mjsnet6	9333/tcp
7	jobsch_win7	9304/tcp	mjsnet7	9334/tcp
8	jobsch_win8	9305/tcp	mjsnet8	9335/tcp
9	jobsch_win9	9306/tcp	mjsnet9	9336/tcp

統合管理機能、ジョブ管理機能ともに、「構築申請」で指定可能なポート番号について初期構築時にのみ変更ができます。
変更後の番号としては、29200～29900を指定できます。

- ファイルサーバー

  番号：22/tcp

  送信元：ファイルサーバーへの接続元マシン

  送信先：ファイルサーバー

第5章 オープンソースソフトウェア等のライセンス条件および責任規定

本サービスで利用するソフトウェア(以降、「本ソフトウェア」と呼びます)には、本書に記載するオープンソースソフトウェア等(以降、「OSS」と呼びます）が含まれています。各OSSのライセンス条件は、“5.1 OSSのライセンス条件”に記載のとおりです。また、本サービスの契約条件と異なる定めがある場合は、各OSSのライセンス条件が優先して適用されます。

なお、本サービスの開始後、修正プログラムの提供に伴い、OSSのバージョンおよびライセンス条件が変更されることがあります。変更後のOSSのバージョンおよびライセンス条件は、提供された修正プログラムまたはドキュメントをご確認ください。

5.1 OSSのライセンス条件

本ソフトウェアに含まれるOSSの名称、バージョン、ライセンス条件については、以下のファイルを解凍し、参照してください。

Systemwalker as a Service 運用ポータル OSSライセンス条件 202509.zip

付録A　機能提供範囲

A.1　統合管理

Systemwalker as a Serviceでは、以下の範囲で統合管理機能を提供します。

各機能の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Centric Manager 解説書

分類	機能	提供	備考
構成の管理	ネットワークの構成情報の管理	○	
	システムの構成情報の管理	○	
	Systemwalkerコンソール	○	
	Systemwalker Webコンソール	×	
	Systemwalker Webコンソール(モバイル版)	×	
資源の配付	資源配付	○	冗長構成のサービスプランの部門管理サーバでも、資源配付機能をクラスタ化していません。
ネットワーク/システムの監視	稼働監視	△	HTTPSプロトコルには、対応していません。
	障害監視	△	イベント監視におけるS/MIME機能は、提供されていません。
	ネットワーク性能監視	○	
	サーバ性能監視	○	
	DHCP監視	×	
	イベントコリレーション	×	
	メッセージ変換	×	
	イベント抑止	○	
	監視抑止	○	
	インストールレス型エージェント監視	×	
アプリケーションの監視	稼働監視	○	
	障害監視	○	
	性能監視	×	
ソフトウェア修正管理		×	
ポリシー	ポリシーの配付	△	監視ポリシーは「通常モード」のみに対応します。
	ポリシーの参照	△	
	ポリシーの移出	×	
Systemwalker自身の監視	イベントトレース	○	
	Systemwalkerのプロセス監視	△	Systemwalkerマネージャーの監視は、クラウドサービス側で対応します。
	Systemwalkerセルフチェック	△	
	スローダウン監視	△	
	IPC資源の一元管理	×	

分類	機能	提供	備考
障害の復旧	リモートからの操作	×	
	リモートコマンド	△	Systemwalkerマネージャーへの操作は提供されていない機能です。
	リモートからの電源投入・切断	×	
	障害対処の自動化	△	自動アクションによるSystemwalkerマネージャーへの操作は提供されていない機能です。 ただし、アプリケーション起動アクションにおいて、Systemwalker as a Serviceの外部に対してsnmpsetコマンドを使用することは可能です。
返答メッセージ		○	
評価	監査ログ分析	×	
セキュリティ	サーバアクセス制御	×	
	コンソール操作制御	○	
	操作ログ出力	○	
	監査ログ出力	○	
	監査ログ管理	○	
	監査ログ分析	×	
共通	高信頼システムの管理	△	冗長構成のサービスプランが必要です。 Systemwalkerマネージャーの管理は、クラウドサービス側で対応します。
	管理サーバの高信頼化（管理サーバのクラスタ化）	△	冗長構成のサービスプランが必要です。
	管理サーバの高信頼化（運用管理サーバ二重化）	×	
	大規模システム（全体監視）	△	全体監視サーバのオプションが必要です。
Systemwalkerスクリプト		△	Systemwalker マネージャーでの実行は、提供されていない機能です。
トラブルシューティング	調査資料の採取	△	Systemwalkerマネージャーの調査資料採取は、クラウドサービス側で対応します。
Open監視		×	
クラウド監視		×	
ServiceNow連携		×	

○：提供しています。

△：一部提供しています。

×：提供していません。

Systemwalkerエージェント、Systemwalkerクライアントについては、Systemwalker Centric Managerの製品マニュアルを参照してください。

A.2　ジョブ管理

Systemwalker as a Serviceでは、以下の範囲でジョブ管理機能を提供します。

各機能の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

- Systemwalker Operation Manager 解説書

分類	機能	提供	備考
電源制御	サーバの電源投入/切断	×	
拡張ユーザ管理		○	
カレンダ		○	
ジョブのスケジュール		○	
ジョブの実行制御		○	ローカルジョブを実行する場合は、スクリプト実行オプションが必要です。
マスタスケジュール管理	日ごとスケジュール管理	○	
	運用変更	○	
	持ち越しジョブネットの制御	○	
	日ごとスケジュールの配付	○	
	複数サーバでの運用	○	
サービス・アプリケーション起動	サービス起動機能	○	
	アプリケーション起動機能	○	
イベント監視		×	
アクション管理		×	
バックアップ連携		×	
業務連携		×	
Systemwalkerスクリプト		△	Systemwalker マネージャーでの実行は、提供されていない機能です。
Job Designer		×	
Webブラウザからの監視/操作		×	
Web API		×	
Interstage連携		×	
グローバルサーバジョブ連携		×	
クラウドサービス連携		×	
他製品ジョブ連携	SAP ERP	×	
	Oracle E-Business Suite	×	
	Interstage Job Workload Server	×	
API	カレンダAPI	×	
	ジョブスケジューラAPI	×	
	ジョブ実行制御API	×	
	アクション管理API	×	
ポリシー運用	ポリシーの配付	○	

分類	機能	提供	備考
セキュリティ	監査ログ出力	○	Systemwalkerマネージャーへの操作は、サービス窓口で対応します。
大規模システム	大規模運用	○	
	サブシステム	○	
	複数サーバ監視	×	
リモートマシンでのジョブ実行		×	
高信頼性	クラスタシステムの適用	△	冗長構成のサービスプランが必要です。
トラブルシューティング	保守情報収集ツール	△	Systemwalkerマネージャーの調査資料採取は、クラウドサービス側で対応します。

○：提供しています。

△：一部提供しています。

×：提供していません。

Systemwalkerエージェント、Systemwalkerクライアントについては、Systemwalker Operation Managerの製品マニュアルを参照してください。

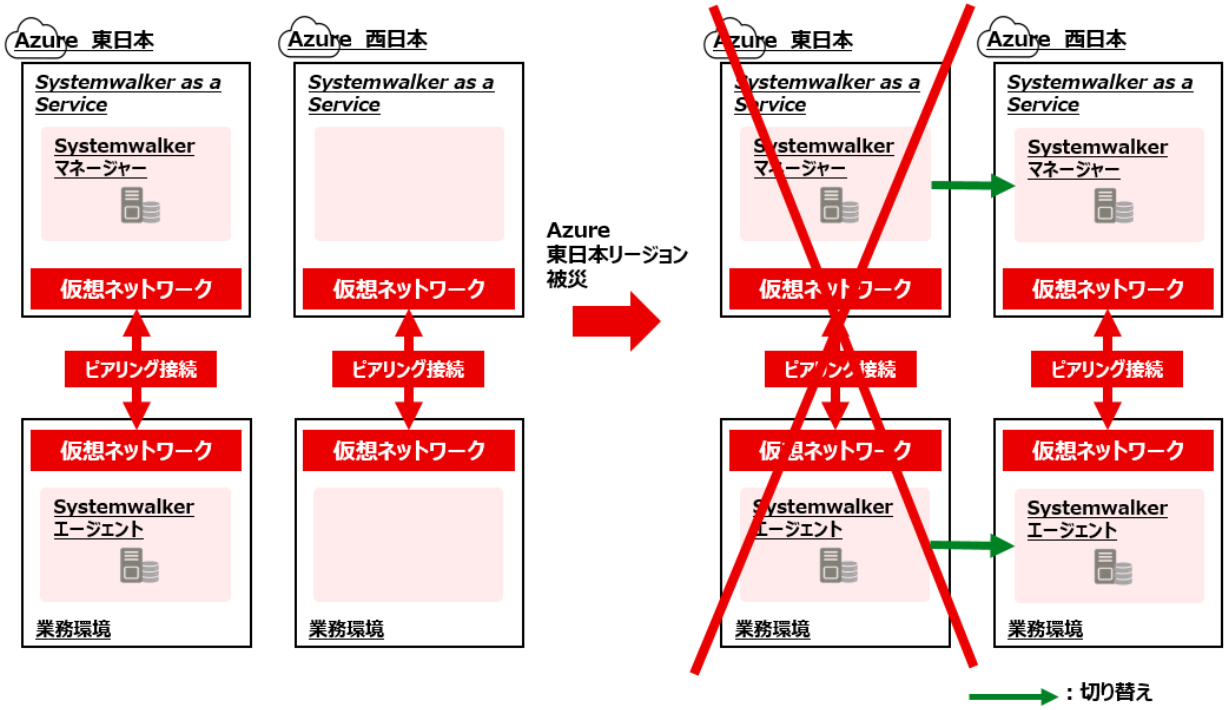
付録B　Disaster Recoveryにおける接続構成

B.1　同一リージョン構成

Systemwalker as a Serviceと同一のリージョンで業務環境を稼働する構成です。

シンプルなネットワーク構成とすることができます。

Systemwalker as a Serviceのリージョン切り替え時、業務環境もリージョンを切り替えることになります。



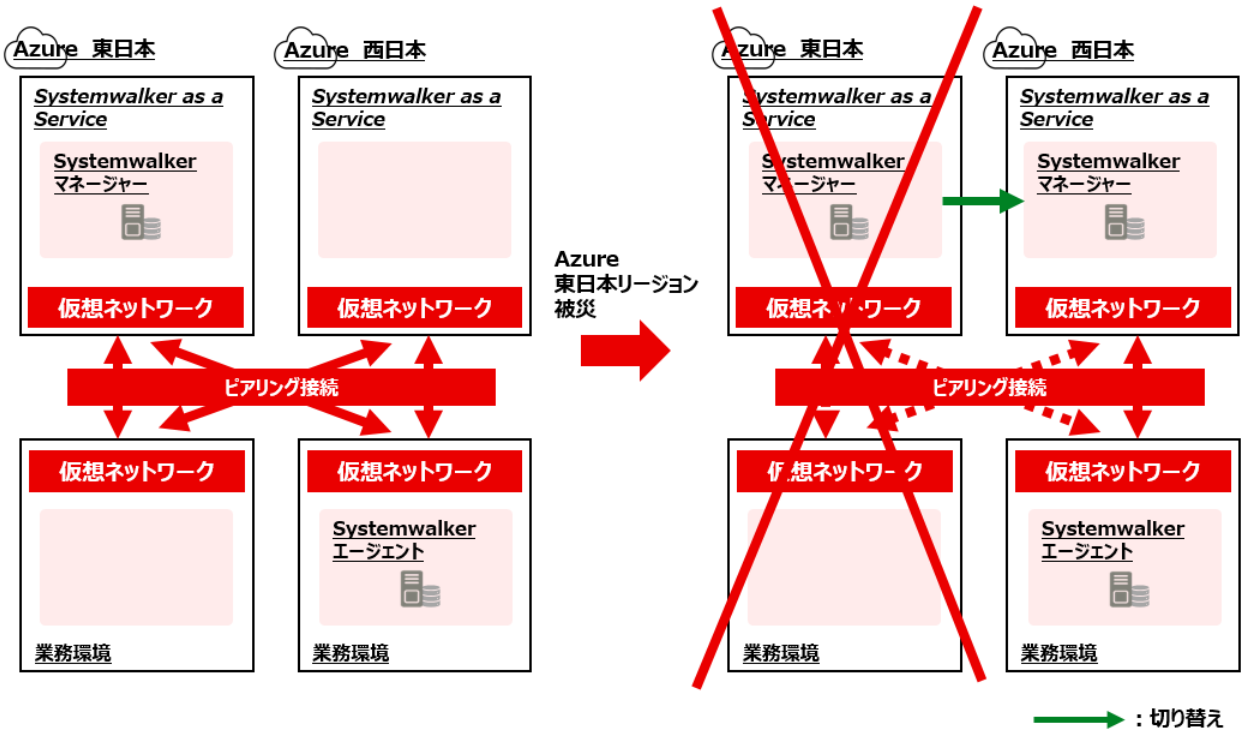
B.2　可変リージョン構成

Systemwalker as a Serviceの稼働リージョンに依存せず業務環境を稼働する構成です。

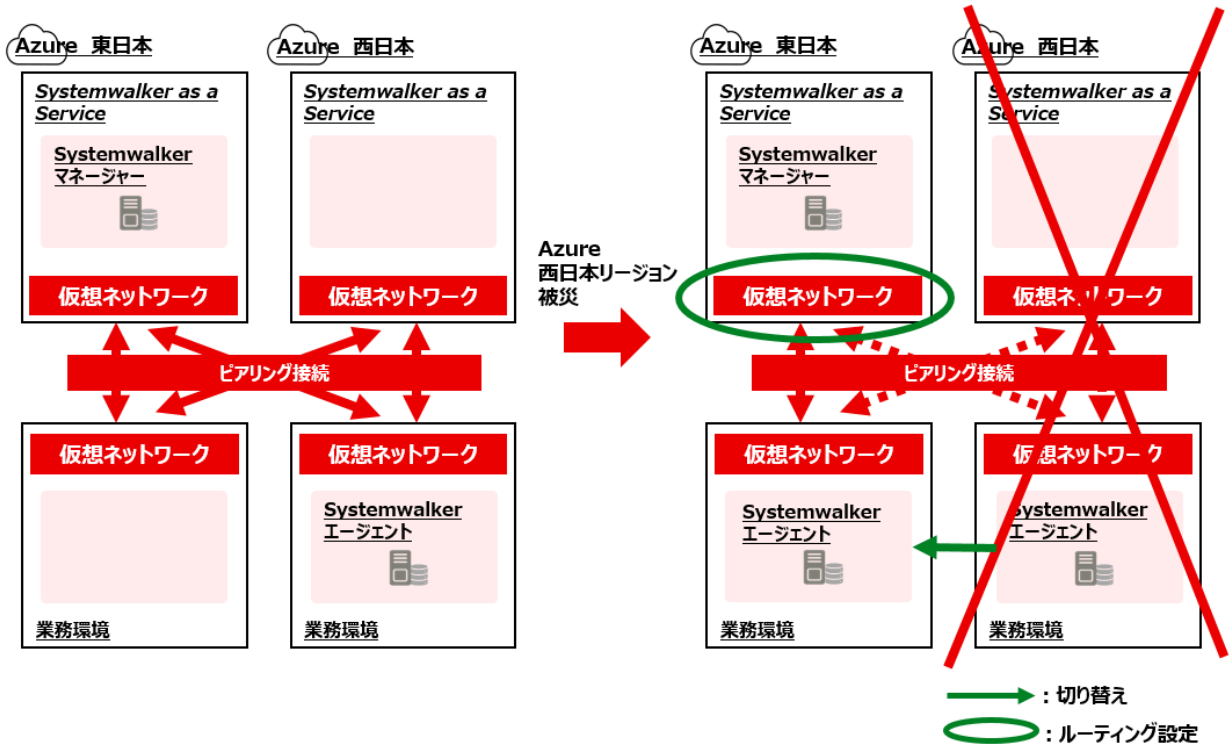
Systemwalker as a Serviceとは異なるリージョンでも、業務環境を稼働させることが可能です。

同一リージョン間のピアリング接続に加えて、東日本リージョンと西日本リージョン間でもピアリング接続を行います。

業務環境が正常稼働している場合、Systemwalker as a Serviceのリージョン切り替え時、業務環境を切り替えることはありません。



また、業務環境側のリージョン被災時など、業務環境のみを切り替えることも可能です。



業務環境のみが切り替わったため、Systemwalker as a Serviceから業務環境へのルーティング設定が必要です。サービス窓口へご連絡ください。

なお、切り替え後に使用する東日本リージョンの業務環境の仮想ネットワークを平時から東日本リージョンのSystemwalker as a Serviceの仮想ネットワークに接続しておくことになります。